

今後の山科のまちづくりの方向性について

～山科区の現状と将来の見通しを踏まえて～

【目次】

1. 山科の魅力	1
2. 山科の「まち」	9
3. 山科の「ひと」	38
4. 区民が感じている今の山科	56
5. 山科の将来の見通し	69
6. 山科区基本計画について （平成23～32年度）	75
7. 今後の山科のまちづくりの方向性	79

1. 山科の魅力

1. 山科の魅力 安心安全のまち

- 山科区の人口(千人)当たり刑法犯認知件数は、西京区に次いで全市で下から2番目に少ない、**安心安全のまち**である。
- 平成25年と比較して市全体の減少割合(約40%)を上回るペース(約45%)で減少している。

	刑法犯 総数	人口(千人)当たり 刑法犯認知件数	順位
北区	923	7.75	3
上京区	785	9.21	7
左京区	1,307	7.76	4
中京区	1,801	16.30	10
東山区	554	14.41	9
山科区	873	6.47	2
下京区	1,568	18.95	11
南区	1,316	13.05	8
右京区	1,633	7.99	5
西京区	809	5.38	1
伏見区	2,261	8.07	6
京都市	13,880	9.41	—

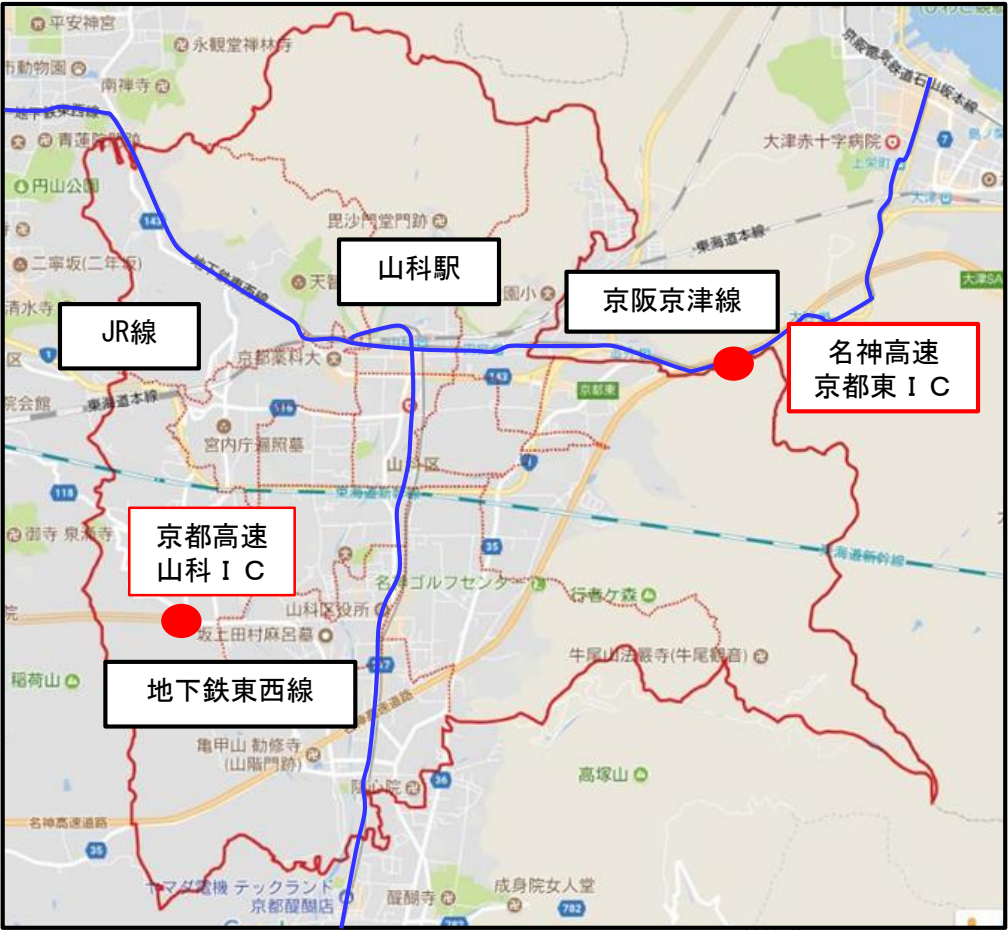
これは、安心安全確保に向けた地域ぐるみの取組(防犯カメラ設置, 登下校時の見守り, パトロール活動など)の賜物



このように、町内会や自治会の結束力が非常に強く、地域の課題解決に向けて、地域で話し合い、解決しようとする姿勢が特徴

1. 山科の魅力 京の東の玄関口、交通の要衝

- 山科区にはJR線、京阪京津線、地下鉄東西線の3路線が走っており、京の東の玄関口として、交通の要衝となっている。
- 山科駅の1日当たりの平均乗車人員は約5万8千人（平成28年度）で、京都市内では京都駅、四条・烏丸駅に次いで、3番目に多い。
- 名神高速道路、京都高速道路の計2つのインターチェンジがあり、京都高速道路新十条通は、平成31年4月から無料化される予定である。



山科駅の1日平均乗車人員（平成28年度）

路線名	駅名	1日平均乗車人員 (人)
JR	山科	34,219
京阪京津線	京阪山科	2,268
地下鉄	山科	21,567

計 58,054

（参考）京都駅、四条烏丸駅の1日平均乗車人員
（平成28年度）

路線名	駅名	1日平均乗車人員 (人)
JR, 地下鉄, 近鉄	京都	352,066
地下鉄, 阪急京都線	四条 烏丸	94,838

（出典:Google MAP）

（出典:京都府統計書）

1. 山科の魅力 伝統産業の集積, 伝統野菜や観光農園の振興, 2つの大学の立地

- 山科には、清水焼団地や仏具・扇子団地という**伝統産業の集積**があり、京焼・清水焼、京仏具、京扇子など多様な伝統工芸品が製作されている。
- 山科なす等の**京の伝統野菜**、ぶどう等の**観光農園**などの地域資源が存在しており、観光資源としても活用されている。
- 京都橘大学、京都薬科大学の**2つの大学が存在する**。



●大陶器市「清水焼の郷まつり」

毎年10月ごろに清水焼団地で開催され、全国から焼き物ファンが集まる。



●山科なす

京の伝統野菜の1つで、山科特産の卵型のなす。果皮が薄いのに煮崩れしないことから、煮物などに適している。

1. 山科の魅力 豊かな自然と歴史・観光資源

- 山科は、山科疏水（琵琶湖疏水）をはじめ、森林や河川など**豊かな自然**に恵まれている。
- また、豊かな歴史を背景に、赤穂義士大石内蔵助良雄ゆかりの大石神社、勧修寺、毘沙門堂、牛尾山法厳寺などの寺院が観光スポットとなっている。
- 山科疏水（琵琶湖疏水）や清水焼団地にも観光客が多数訪れている。
- その他、歴史的にも有名な、天智天皇陵、坂上田村麻呂墓、小野小町の里（随心院・梅園）、蓮如上人足跡（本願寺別院跡）、志賀直哉旧居など**多くの歴史・観光資源**が存在する。

【お祭りやイベントなど】



●山科義士まつり

毎年12月14日（討ち入りをした日）に開催。

毘沙門堂から大石神社まで、義士の姿に仮装した義士列が練り歩く。

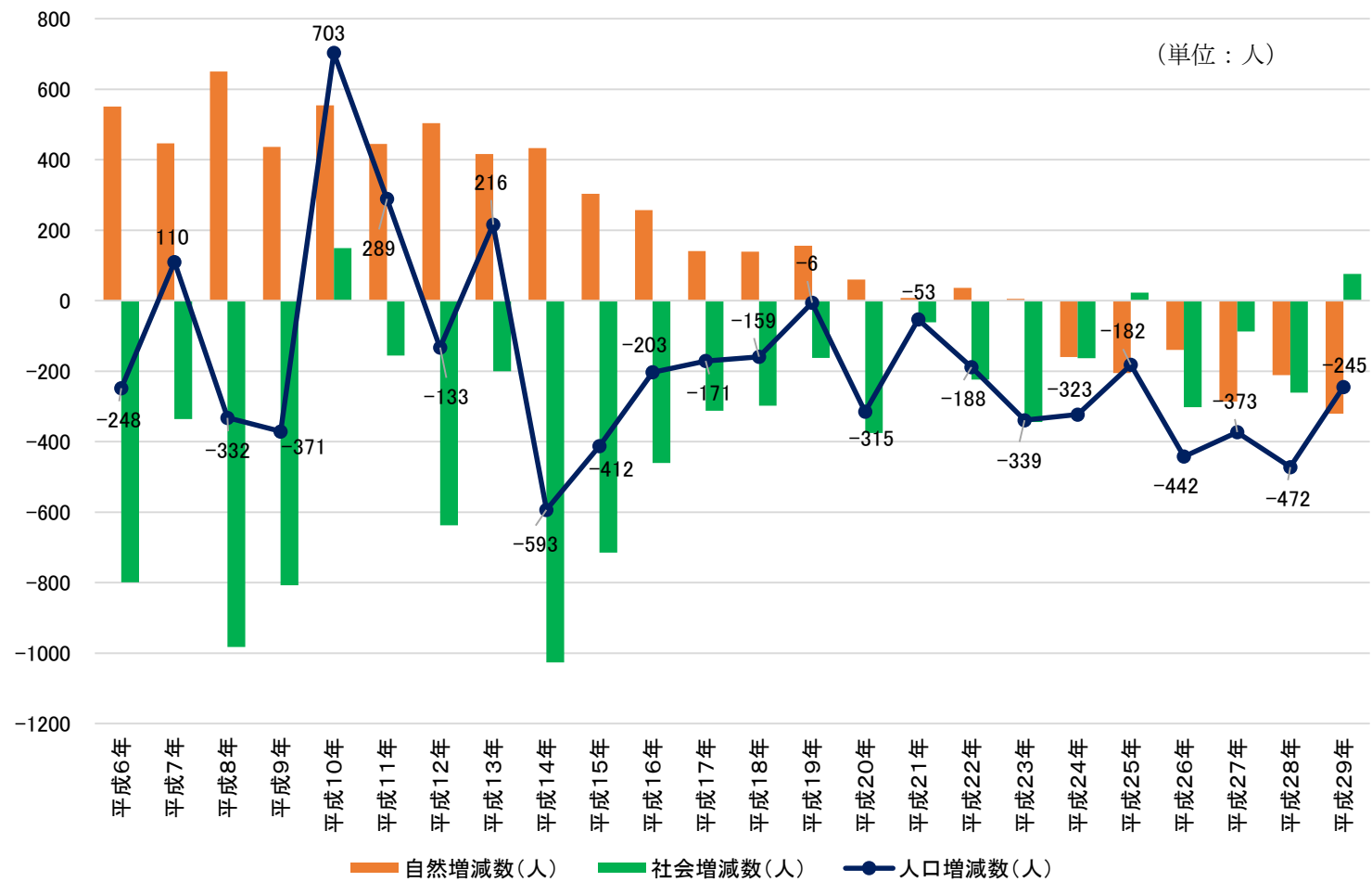
【観光振興の取り組み】

- おこしやす“やましな”協議会
- 山科検定 など



2. 山科の魅力 人口増減 ～4年ぶりの転入超過～

・ 山科区では、概ねこの20年間は、ゆるやかな人口減少の傾向にある。
以前は、自然増(死亡者数<出生者数)であるものの、それ以上に社会減(転出者数>転入者数)が多かったために人口が減少する時期もあった。ここ数年は、社会減(転出者数>転入者数)により人口減少の傾向にあるものの、**直近の平成29年は転入超過**となった。



平成29年は、
4年ぶりに
転入超過

1. 山科の魅力

～ まとめ ～

<安心安全のまち>

市民力，地域力が強い中，**人口(千人)当たり刑法犯認知件数は，全市で下から2番目に少ない，安心安全のまち。**

<京の東の玄関口，交通の要衝>

JR線，京阪京津線，地下鉄東西線の3路線が走っており，**京の東の玄関口として，交通の要衝**となっている。

区内に2つのインターチェンジがあり，**高速道路へのアクセスも良好。**

<伝統産業の集積，伝統野菜や観光農園の振興，大学の立地>

清水焼団地など**伝統産業の集積**があり，多様な伝統工芸品が製作されている。

山科なす等の**京の伝統野菜**，ぶどう等の**観光農園**などの地域資源が存在しており，観光資源としても活用。

京都橘大学，京都薬科大学の**2つの大学が存在。**

～ まとめ ～

<豊かな自然，歴史・観光資源>

山科疏水（琵琶湖疏水）をはじめ，森林や河川など**豊かな自然**とともに，**多くの歴史・観光資源が存在**。大石神社，勧修寺，毘沙門堂，随心院，牛尾山法厳寺などの寺院，山科疏水（琵琶湖疏水）等が観光スポットに。

<人口増減>

この20年間は，ゆるやかな人口減少の傾向にあるものの，**直近の平成29年は転入超過**。

2. 山科の「まち」

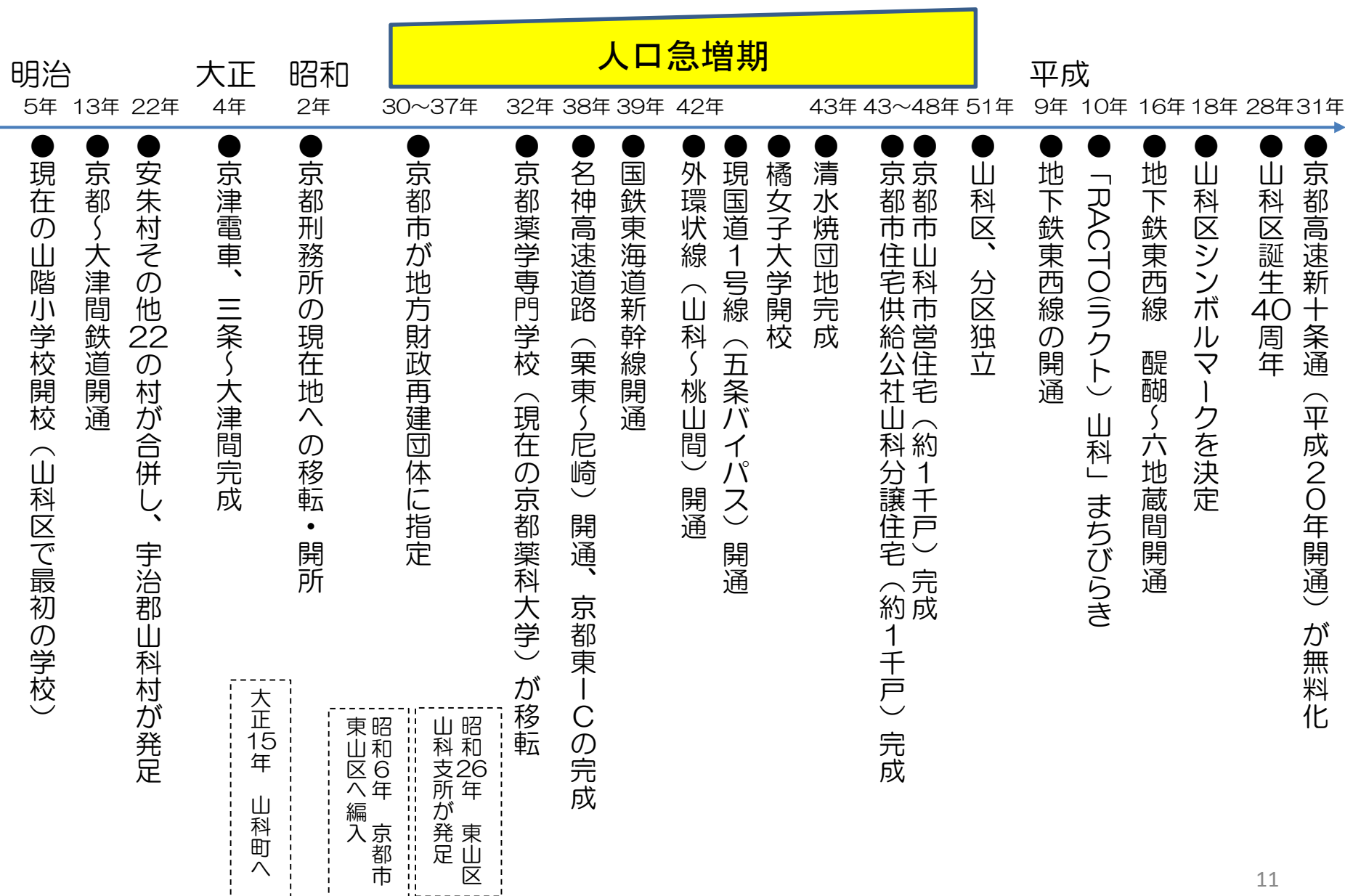
山科の沿革 ～歴史の始まりから近代に至るまで～

- ① 山科区に人が住み始めたのは**旧石器時代**。
(区中心部の中臣遺跡からは石器が発掘)
- ② 飛鳥時代の**大化の改新**で知られる中兄大皇子(天智天皇)と、
中臣鎌足(藤原鎌足)は山科にゆかりが深く、
鎌足の邸宅「山階陶原家」と、**興福寺(奈良市)の前身「山階寺」**が存在。
やましなのすえはらのいえ やましなでら
- ③ 平安京遷都以降は、都の東の玄関口として重要な位置を占め、
勧修寺や随心院などの寺院が建立。
- ④ 中世には、一向宗の蓮如により、大規模な寺内町を形成する山科本願寺が
形成され、大いに繁栄。
- ⑤ 江戸時代には、大石内蔵助が討入り前に隠れ住んだと言われており、
区内各所に赤穂義士にまつわる史跡が多数残っている。



(三条通五条別れ交差点付近)

2. 山科の「まち」 山科のまちの変遷

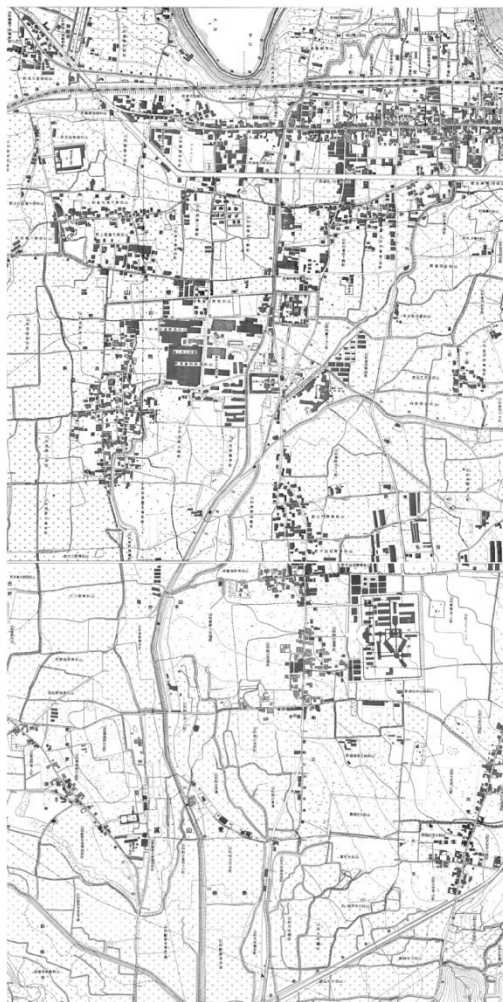


2. 山科の「まち」 山科のまちの変遷

昭和10年

街道沿いに一定の民家や商店の集積はあるが、田園地域がほとんどを占める。

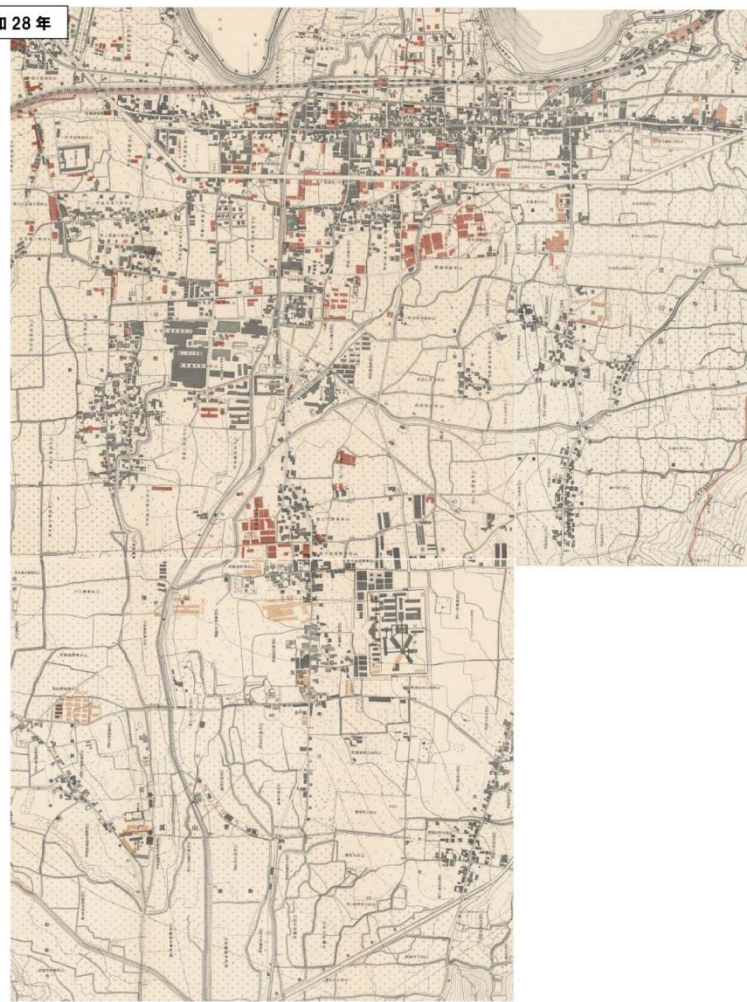
昭和 10 年



昭和28年

山科駅周辺の都市化が進むが、田園地域は残されている。

昭和 28 年



2. 山科の「まち」 山科のまちの変遷

昭和38年

名神高速道路が開通し、主要道路沿いに建物が密集し始める。

昭和 36 年



昭和62年

宅地化が進み、山科区内の人口が13万人を超える。

昭和 62 年

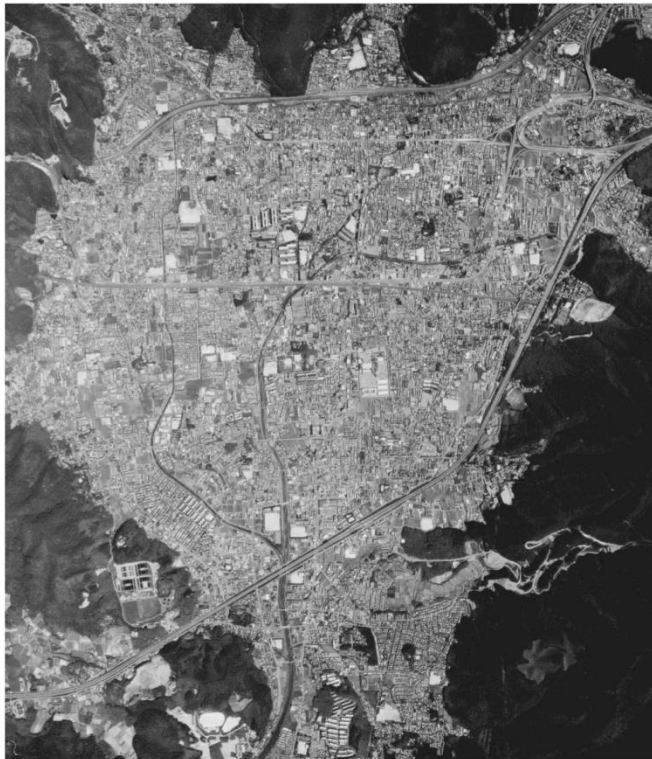


2. 山科の「まち」 山科のまちの変遷

平成2年

山科区全域で市街化が進行する。

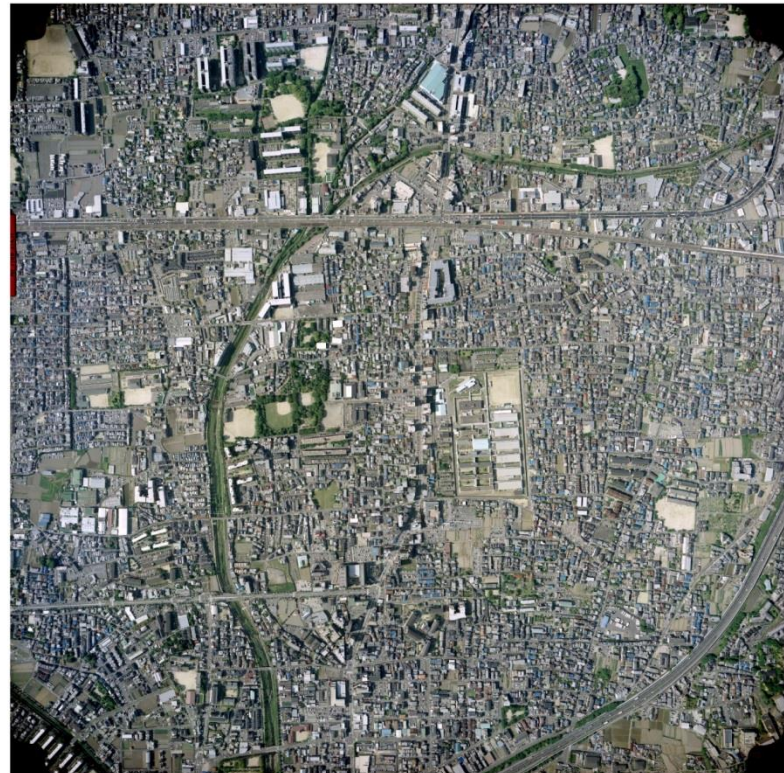
平成 2 年



平成20年

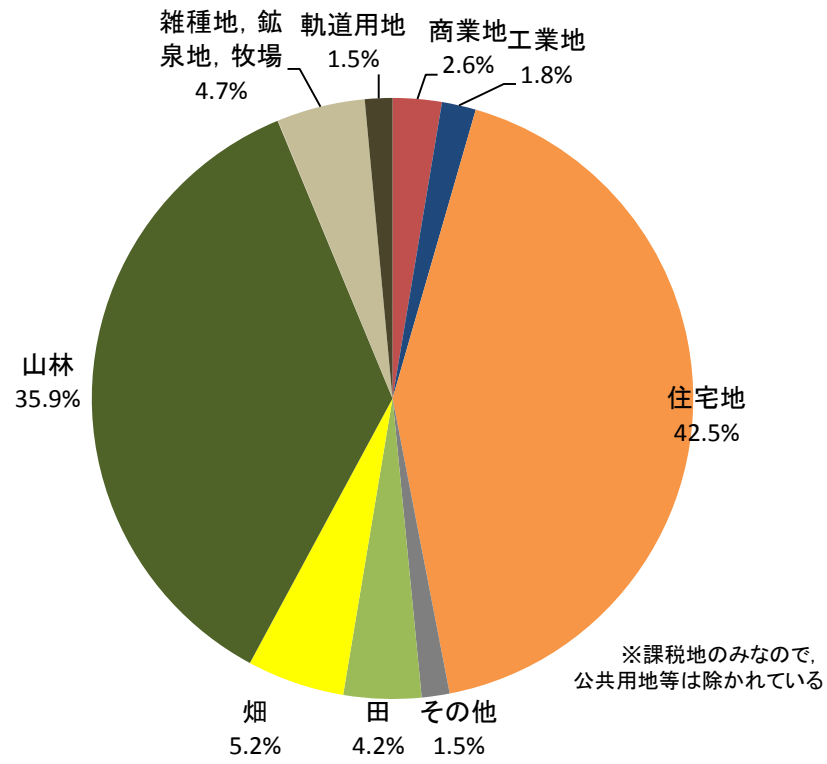
地下鉄東西線が六地蔵まで開通する。

平成 20 年

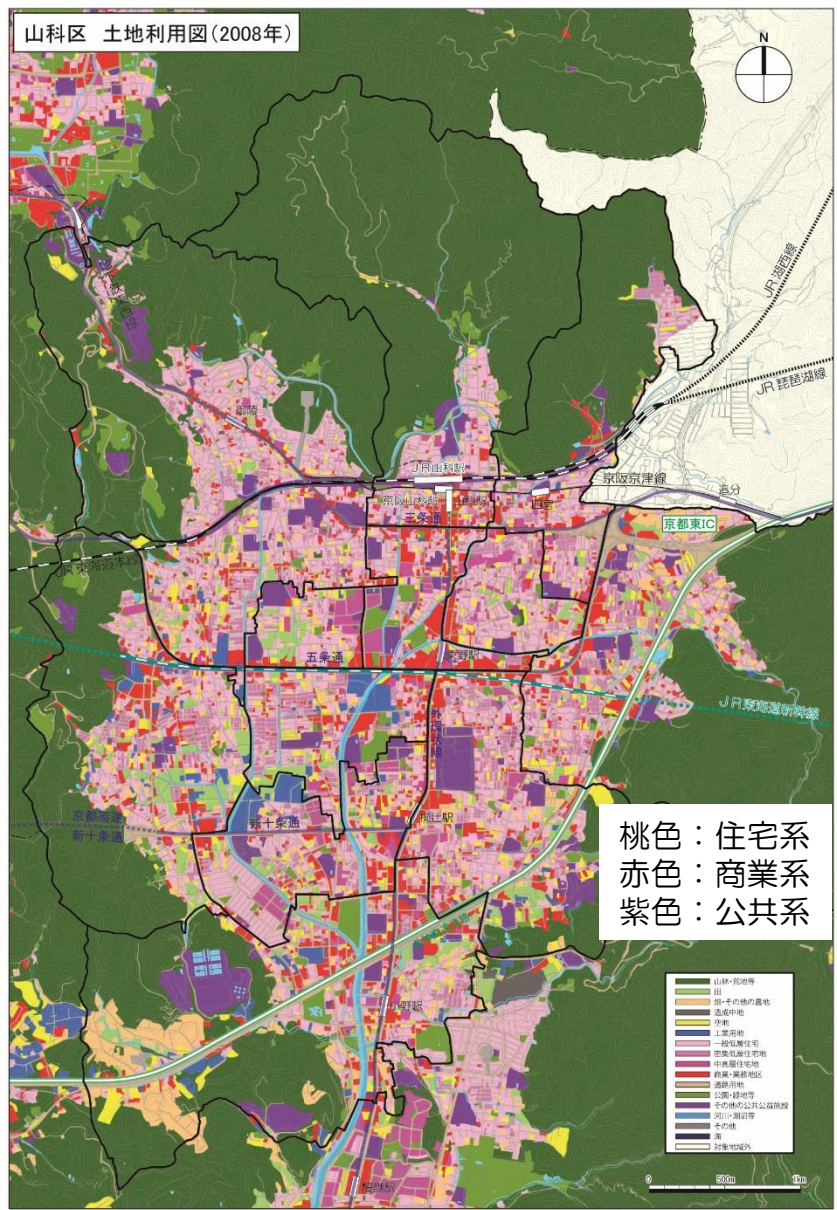


2. 山科の「まち」 土地利用の状況

- 山地に囲まれた盆地内部は、昭和期からの人口増加で、住宅地が大半を占める。
- 商業、業務は山科駅周辺から幹線道路(五条通, 外環状線)沿いに集まる。
- 山科川, 旧安祥寺川沿いに工業地も点在。
- 新十条通北部, 名神高速道路南部には農地も点在。
- 新たに活用できるまとまった土地が乏しい。



地目別土地面積 (平成28年) (出典: 京都市統計資料)



(出典: 国土地理院資料)

2. 山科の「まち」 住宅(戸建・共同住宅を含む)の建築時期

- ・ 昭和30年代後半から昭和50年代前半にかけて建築された住宅の割合が全市平均より高くなっている。
- ・ とりわけ建築の時期が「昭和36年～45年」である住宅の割合は全市で最も高く、建築の時期が「昭和46年～55年」である住宅の割合は、伏見区、西京区に次いで3番目に高い。

	北区	上京区	左京区	中京区	東山区	山科区	下京区	南区	右京区	西京区	伏見区	京都市
昭和35年以前	10.8%	10.8%	7.2%	9.3%	13.1%	3.4%	7.8%	6.1%	6.1%	2.6%	3.6%	6.5%
昭和36年～45年	⑤ 5.3%	⑨ 3.3%	⑥ 4.9%	⑩ 3.1%	⑦ 4.5%	① 9.1%	⑪ 2.5%	⑧ 4.3%	② 7.8%	④ 5.8%	③ 6.0%	5.5%
昭和46年～55年	⑨ 9.9%	⑧ 10.4%	⑥ 13.9%	⑩ 8.6%	⑦ 12.4%	③ 18.3%	⑪ 6.4%	④ 16.7%	⑤ 14.3%	② 21.1%	① 22.0%	15.1%
昭和56年～平成2年	17.4%	19.8%	18.4%	17.4%	18.6%	14.7%	11.9%	18.4%	17.3%	21.5%	16.3%	17.3%
平成3年～12年	20.3%	20.4%	16.9%	21.4%	13.6%	17.9%	21.4%	17.5%	19.3%	23.1%	18.9%	19.3%
平成13年～22年	18.5%	20.5%	16.0%	23.7%	15.7%	18.1%	28.2%	17.4%	18.0%	13.2%	16.8%	18.4%
平成23年～25年9月	3.6%	3.8%	3.3%	3.2%	4.2%	3.0%	6.4%	2.2%	5.0%	3.2%	1.6%	3.4%

< 丸数字は、行政区別の順位（高い順） >

2. 山科の「まち」 住宅(戸建・共同住宅を含む)の建て方

・ 一戸建ての割合が全市で最も高くなっており、共同住宅の割合は全市で最も小さくなっている。

	一戸建て		長屋建て	共同住宅		その他
北区	②	54.9%	2.4%	⑨	42.5%	0.2%
上京区	⑨	38.2%	2.5%	③	59.0%	0.3%
左京区	⑤	48.7%	0.5%	⑥	50.8%	0.0%
中京区	⑩	34.3%	1.4%	②	64.1%	0.2%
東山区	⑥	48.3%	1.4%	⑦	49.7%	0.6%
山科区	①	56.6%	2.4%	⑪	40.9%	0.0%
下京区	⑪	29.2%	2.1%	①	68.5%	0.2%
南区	⑦	46.2%	2.0%	⑤	51.8%	0.1%
右京区	③	53.1%	4.2%	⑨	42.5%	0.3%
西京区	④	52.2%	4.3%	⑧	43.2%	0.4%
伏見区	⑧	43.5%	2.4%	④	54.1%	0.0%
京都市		46.5%	2.4%		50.9%	0.2%

< 丸数字は、行政区別の順位（高い順） >

（出典：平成25年住宅・土地統計調査）

2. 山科の「まち」 住宅(戸建・共同住宅を含む)の所有関係

- ・「持ち家」の割合が右京区に次いで2番目に高くなっている。
- ・また、「借家」の割合は右京区に次いで2番目に低い、「借家のうち公営住宅」の割合は、伏見区、西京区に次いで3番目に高くなっている。

	持ち家		借家		借家のうち公営住宅	
北区	⑤	52.3%	⑤	44.7%	⑦	1.9%
上京区	⑩	45.3%	②	52.0%	⑪	0.3%
左京区	⑦	48.3%	⑥	44.3%	⑥	3.9%
中京区	⑨	47.4%	④	48.2%	⑩	1.3%
東山区	⑧	47.9%	③	48.4%	④	8.2%
山科区	②	61.0%	⑩	36.4%	③	11.3%
下京区	⑪	38.2%	①	55.8%	⑨	1.8%
南区	④	55.5%	⑨	39.4%	⑤	5.5%
右京区	①	61.2%	⑪	35.5%	⑦	1.9%
西京区	③	58.0%	⑧	40.5%	②	15.9%
伏見区	⑥	51.5%	⑦	43.9%	①	21.5%
京都市		52.4%		43.5%		7.8%

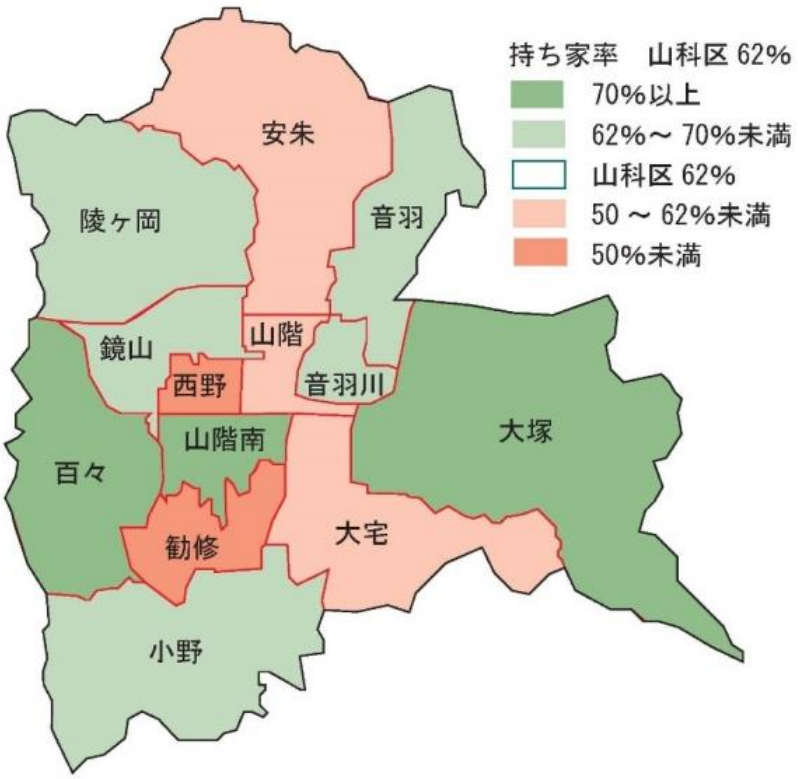
< 丸数字は、行政区別の順位（高い順） >

（出典：平成25年住宅・土地統計調査）

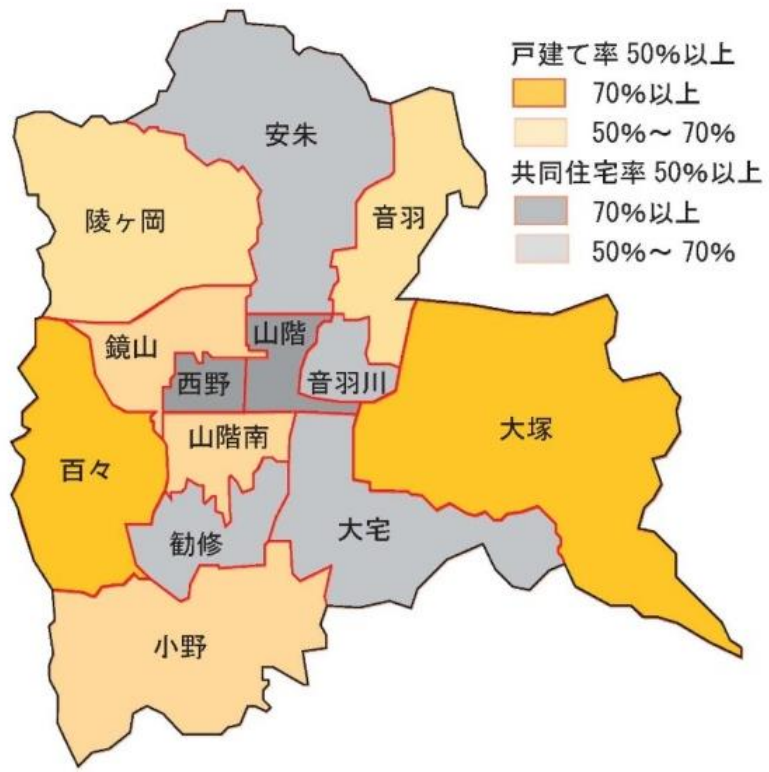
2. 山科の「まち」 (参考)学区別持ち家率・住宅の建て方

- 区全体では持ち家率は62%。西野と勸修学区が持ち家率が40%台と低く、その他の学区は50%を越え、山階南、大塚、百々学区が70%を越えて高い。
- 区全体では戸建て率が53%、共同住宅率が45%。西野学区では75%と最も共同住宅率が高く、次いで山階学区が74%と続く。

平成 27 年の持ち家率（山科区 62%と比較）



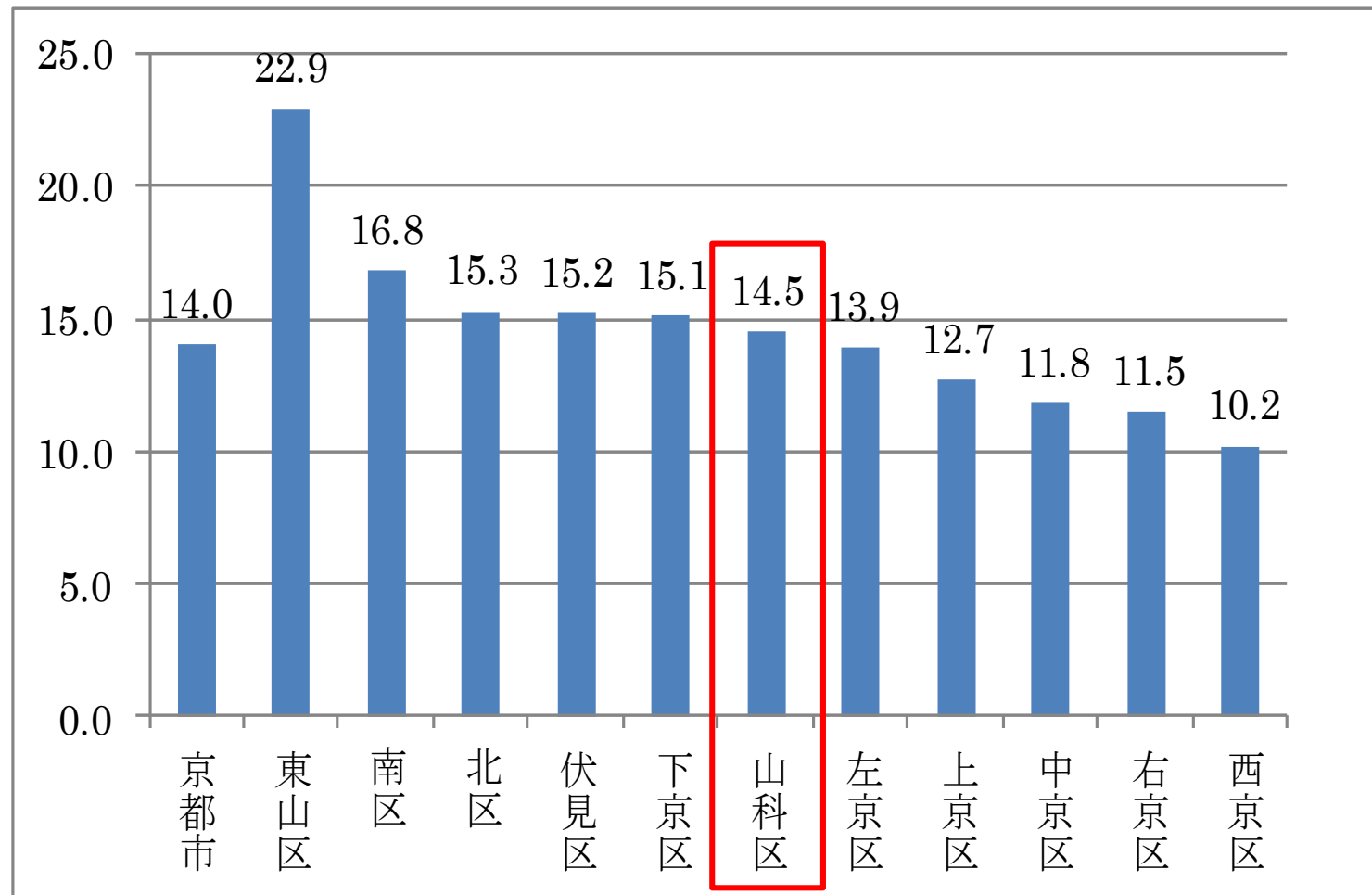
平成 27 年住宅の建て方（山科区：戸建て率 53%、共同住宅率 45%）



2. 山科の「まち」 空き家の状況

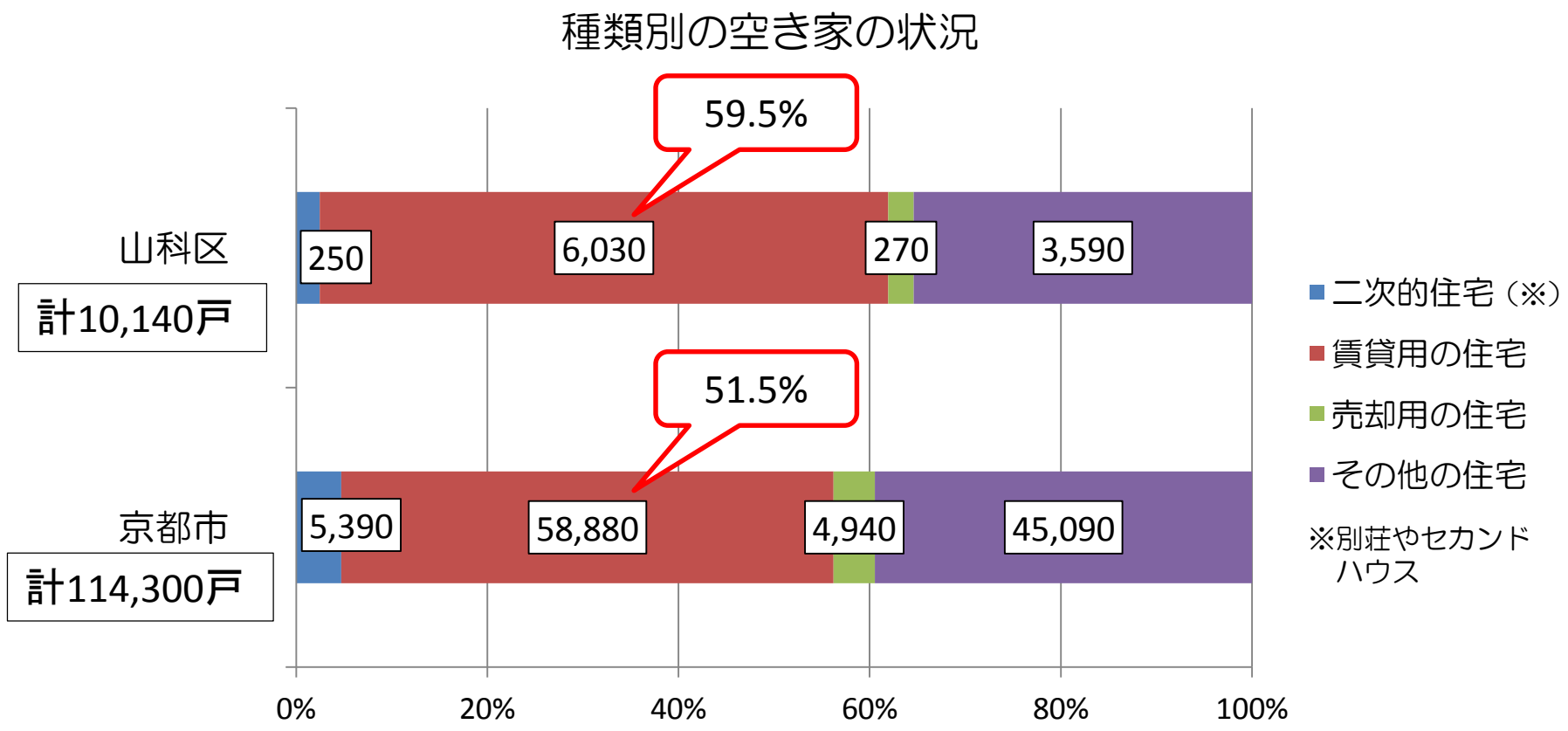
- 平成25年の調査結果では、山科区の空き家率は14.5%と全市平均を上回っており、**1万戸を超える空き家(10,140戸)**が存在している。

行政区別空き家率（％）



2. 山科の「まち」 空き家の状況

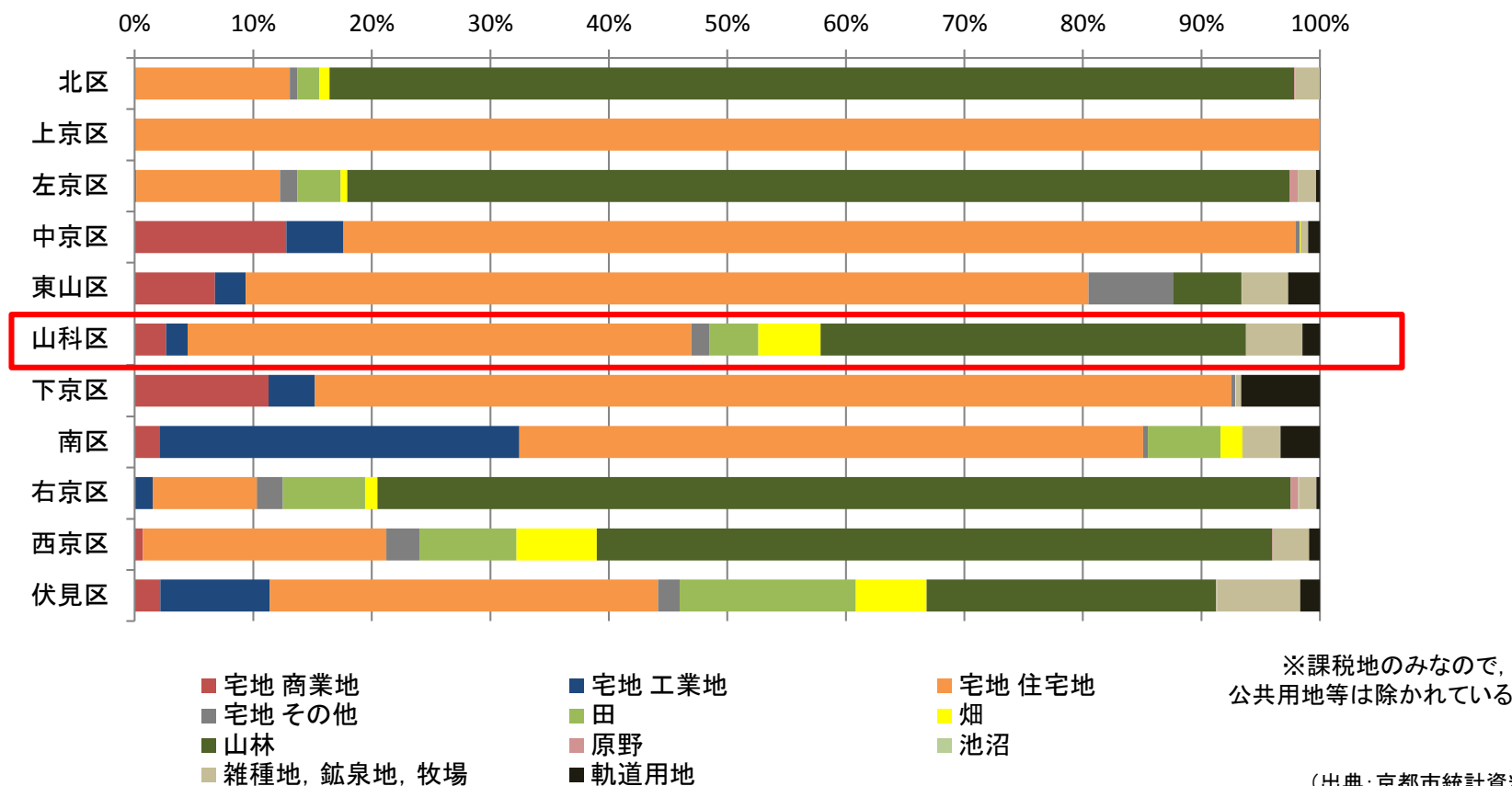
・ 種類別の空き家の状況に着目すると、山科区は賃貸用の空き家の占める割合が59.5%と大きくなっている。



2. 山科の「まち」 地目別土地面積

- ・ 固定資産税の課税対象となる地目別面積を見ると、宅地は全体の49%を占め、うち、住宅地が43%を占めている。また、山林が全体の35%を占めている。
- ・ 周辺区においては緑地が、また、中心区においては宅地が、多く占める傾向にあるなか、山科区は宅地と緑地の割合が同程度となっている。

地目別土地面積(平成28年)



2. 山科の「まち」 建物用途別現況

・ 建物用途別の延床面積の比率では、山科区は住宅が80.3%で、市全体よりは高く、商業業務施設、工業施設は市全体より比率は低い。

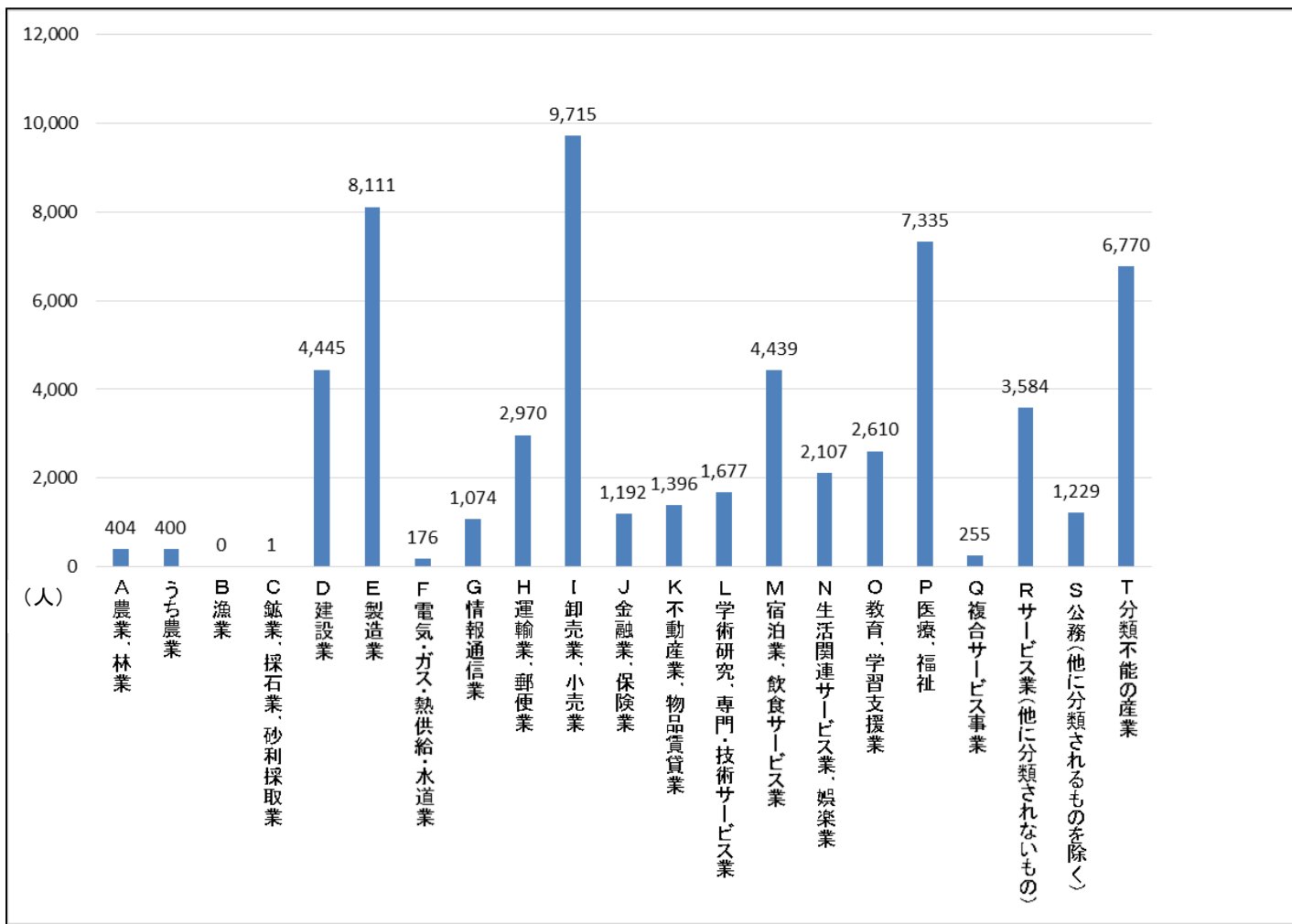
建物用途別現況面積（市街化区域，2016年）

行政区	A. 専用住宅						B.	住宅	C. 商業 業務施 設	D. 工業 施設	E. その他	G.
	農家	戸建		共同建		小計	併用	小計				合計
		木造	非木造	木造	非木造		住宅					(A～E)
京都市	1.1%	35.9%	7.7%	1.3%	20.2%	66.3%	5.0%	71.2%	18.4%	8.3%	2.1%	100%
北区	1.9%	51.2%	8.8%	2.2%	15.6%	79.8%	7.6%	87.4%	8.3%	2.7%	1.7%	100%
上京区	0.0%	29.6%	9.9%	0.7%	24.6%	64.8%	14.5%	79.4%	16.2%	3.1%	1.4%	100%
左京区	2.2%	47.9%	8.8%	2.4%	20.0%	81.3%	3.8%	85.0%	10.3%	2.3%	2.3%	100%
中京区	0.0%	17.1%	7.2%	0.3%	24.8%	49.4%	9.2%	58.6%	34.1%	5.6%	1.6%	100%
東山区	0.0%	30.0%	7.6%	1.3%	18.7%	57.6%	10.9%	68.5%	26.7%	3.3%	1.4%	100%
下京区	0.1%	16.0%	6.2%	0.4%	20.5%	43.1%	5.1%	48.2%	44.8%	5.1%	1.8%	100%
南区	0.7%	23.0%	4.9%	0.9%	16.2%	45.8%	2.6%	48.5%	25.4%	25.0%	1.2%	100%
右京区	2.8%	42.4%	5.7%	1.4%	20.5%	72.9%	3.3%	76.2%	11.3%	10.2%	2.2%	100%
伏見区	0.9%	37.4%	8.1%	1.3%	20.7%	68.4%	2.3%	70.7%	13.8%	12.9%	2.6%	100%
山科区	1.1%	46.2%	8.8%	1.8%	19.0%	76.9%	3.4%	80.3%	10.1%	6.5%	3.1%	100%
西京区	1.4%	51.3%	10.8%	1.2%	20.1%	84.9%	2.1%	87.0%	7.6%	3.1%	2.3%	100%

2. 山科の「まち」 産業

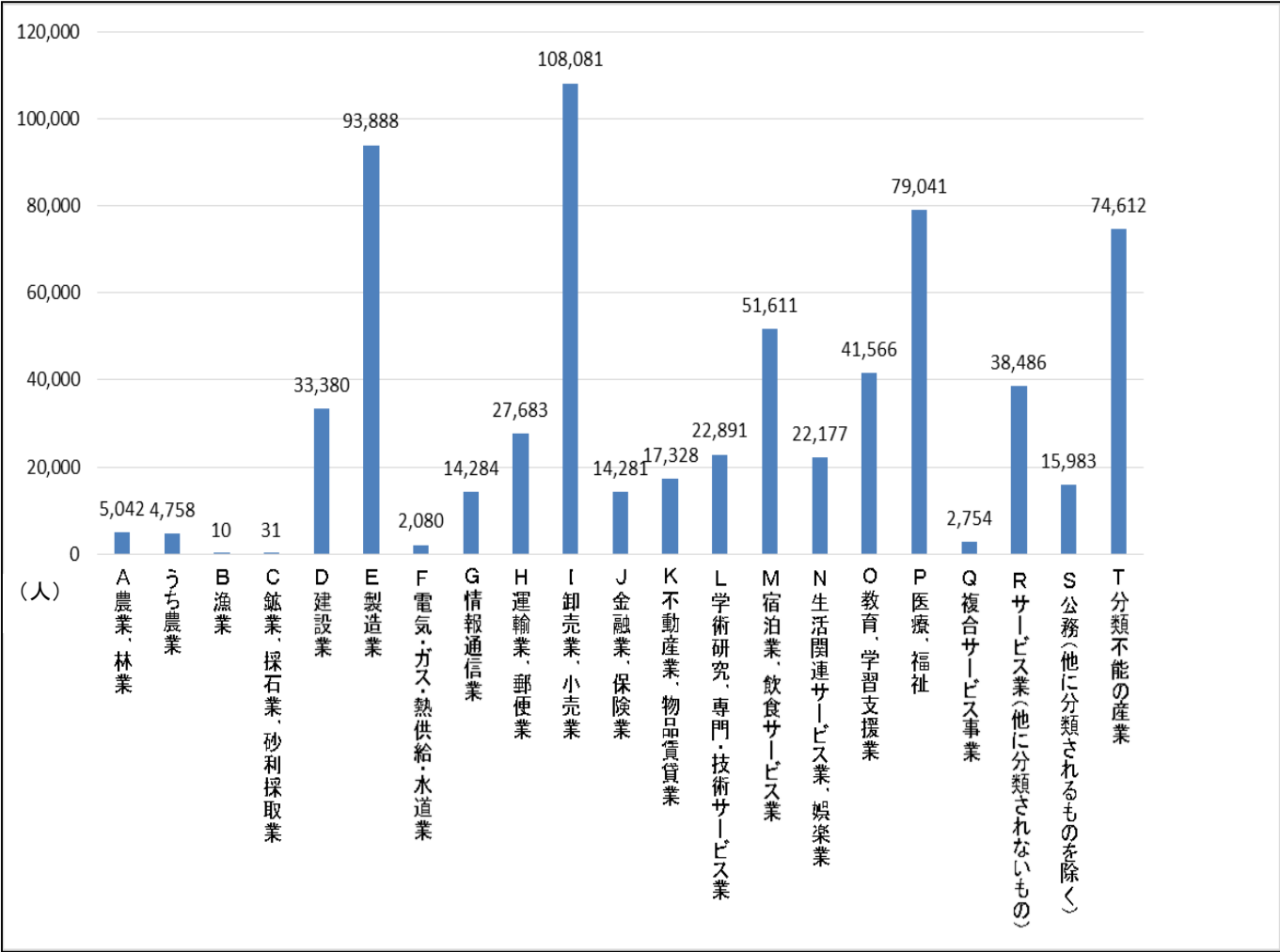
・ 産業別就業者数は①卸売・小売業，②製造業，③医療・福祉の順に就業者の割合が高く，京都市全体の割合と概ね同様となっている。

【山科区】 産業別就業者数(就業者数59,490人)



・ 産業別就業者数は①卸売・小売業、②製造業、③医療・福祉の順に就業者の割合が高い。

【京都市】 産業別就業者数(就業者数665,209人)



・ 卸売、製造業事業所数は、それぞれ全市で下から4番目に少ない。

卸売、製造業事業所の状況

卸売事業所の状況

	事業所数	事業者数 (人)	年間商品販売額 (万円)
山科区	276 (8)	2,037 (7)	8,924,568 (6)
北 区	255 (9)	1,125 (10)	2,075,503 (10)
上京区	347 (6)	2,643 (6)	6,776,691 (7)
左京区	280 (7)	1,769 (8)	5,665,699 (8)
中京区	857 (2)	8,977 (3)	41,779,149 (3)
東山区	164 (11)	871 (11)	1,593,375 (11)
下京区	1,216 (1)	15,893 (1)	89,671,169 (1)
南 区	709 (4)	12,663 (2)	59,634,165 (2)
右京区	405 (5)	3,312 (5)	16,193,958 (5)
西京区	189 (10)	1,304 (9)	2,640,913 (9)
伏見区	734 (3)	6,979 (4)	38,965,433 (4)
京都市	5,432	57,573	273,920,623

() 内の数字は行政区別の順位

(出典:平成26年商業統計調査)

製造業事業所の状況

	事業所数
山科区	502 (8)
北 区	724 (6)
上京区	1,012 (3)
左京区	387 (9)
中京区	1,084 (2)
東山区	373 (10)
下京区	721 (7)
南 区	1,204 (1)
右京区	983 (4)
西京区	328 (11)
伏見区	934 (5)
京都市	8,252

(出典:平成26年経済センサス)

・ 小売業事業所数は、全市で下から2番目に少ない。

小売業事業所の状況

	事業所数	事業者数 (人)	年間商品販売額 (万円)	売場面積(㎡)
山科区	821 (10)	7,065 (7)	9,384,325 (7)	74,376 (8)
北 区	1,088 (7)	7,035 (8)	7,587,371 (8)	66,343 (9)
上京区	1,111 (6)	6,155 (9)	5,862,929 (10)	53,390 (10)
左京区	1,381 (5)	9,670 (6)	11,696,567 (6)	106,674 (6)
中京区	2,236 (1)	14,280 (2)	14,667,208 (4)	144,569 (3)
東山区	1,020 (8)	4,798 (11)	4,277,474 (11)	39,939 (11)
下京区	1,800 (2)	16,691 (1)	41,747,636 (1)	423,771 (1)
南 区	1,015 (9)	10,014 (5)	27,380,201 (2)	119,165 (5)
右京区	1,391 (4)	10,654 (4)	14,616,177 (5)	139,188 (4)
西京区	758 (11)	6,023 (10)	7,120,321 (9)	75,387 (7)
伏見区	1,751 (3)	13,253 (3)	20,664,063 (3)	225,474 (2)
京都市	14,372	105,638	165,004,272	1,468,276

() 内の数字は行政区別の順位

・ 保育所については、利用定員を利用児童数が下回っており、定員充足率は全市で下から4番目に低い。

行政区別保育所等利用定員と利用児童数等（平成30年4月1日）

	定員（人）	利用児童数（人）	定員充足率
京都市	31,326	31,433	100.3%
北区	2,454	2,472	100.7%
上京区	1,379	1,385	100.4%
左京区	3,143	3,274	104.2%
中京区	2,412	2,317	96.1%
東山区	872	796	91.3%
山科区	3,041	2,928	96.3%
下京区	1,655	1,555	94.0%
南区	2,812	2,933	104.3%
右京区	3,545	3,705	104.5%
西京区	2,495	2,490	99.8%
洛西	970	975	100.5%
伏見区	3,837	3,925	102.3%
深草	1,011	1,009	99.8%
醍醐	1,700	1,669	98.2%

2. 山科の「まち」 福祉

- ・ 介護保険の第1号被保険者(65歳以上)のうち要支援, 要介護者の割合は, 全市で下から2番目に低い。
- ・ 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)等の事業所定員数は, 全市で2番目に多い。

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)等の状況 ※平成29年12月末時点

	第1号被保険者(65歳以上)(人) (A)	うち要支援, 要介護者(人) (B)	割合 (B/A)	順位	施設サービス事業所(※)数	施設サービス事業所定員数	順位
京都市	391,848	85,231	21.8%	—	129	12,281	—
北区	32,995	7,401	22.4%	6	12	920	5
上京区	22,455	5,932	26.4%	1	4	300	11
左京区	44,397	9,554	21.5%	7	17	1,622	3
中京区	26,773	6,239	23.3%	4	5	403	9
東山区	12,281	2,934	23.9%	3	3	330	10
山科区	38,647	7,614	19.7%	10	13	1,746	2
下京区	18,906	4,560	24.1%	2	6	467	8
南区	25,576	5,787	22.6%	5	9	599	7
右京区	54,549	11,734	21.5%	8	16	1,193	4
西京区	39,474	7,485	19.0%	11	9	771	6
伏見区	75,795	15,991	21.1%	9	35	3,930	1

※ 施設サービス事業所:介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム), 介護老人保健施設, 介護療養型医療施設

2. 山科の「まち」 公共施設等

- ・ 公共施設のうち、区役所などの行政機関は勧修学区に集中し、福祉系の施設は山階学区に集中している。
- ・ 区内には大学が2校（京都橘大学、京都薬科大学）立地している。



山科区内の大学

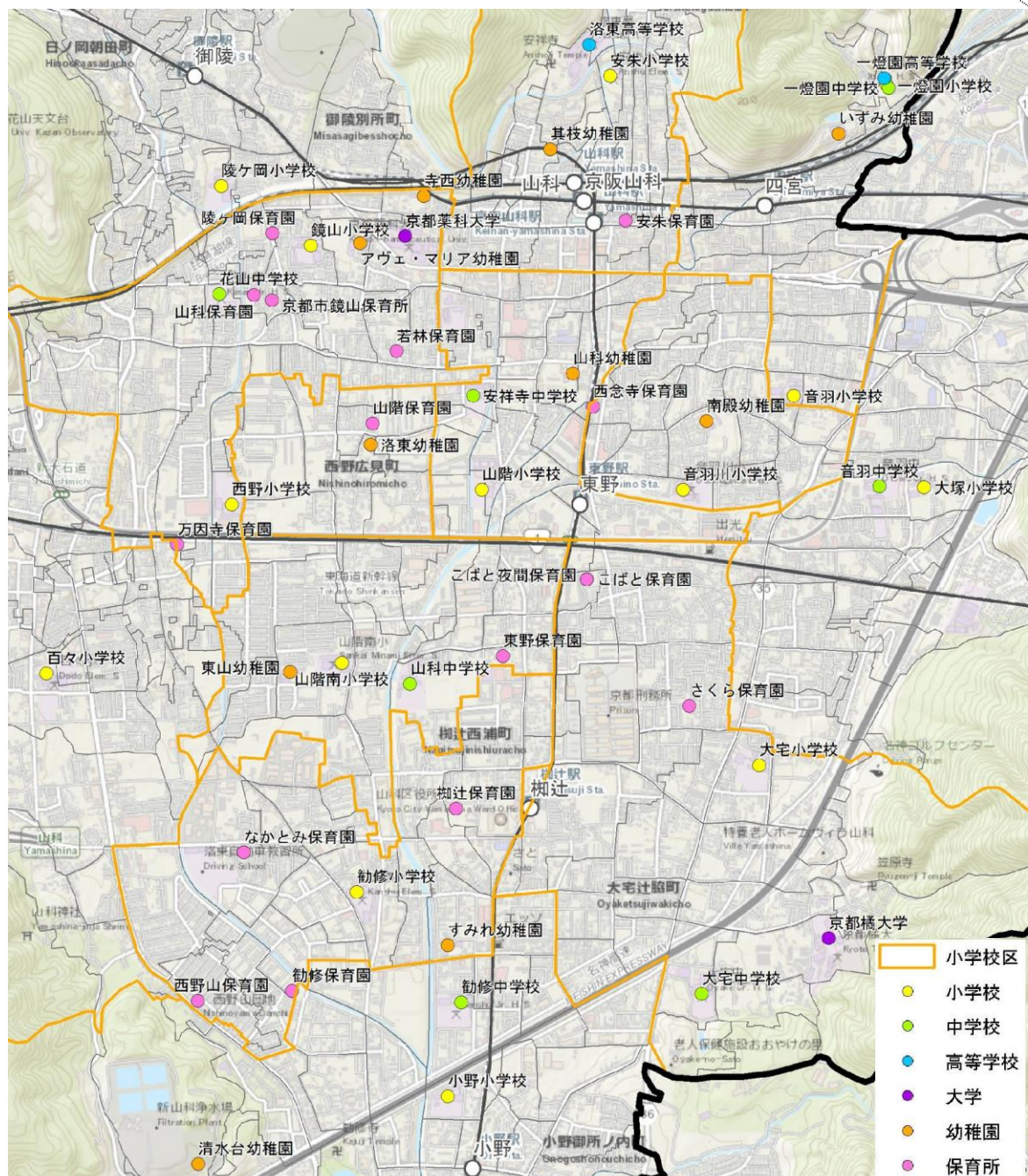
●京都橘大学（学生数4,221人）

1902（明治35）年に創立された「京都女子手芸学校」が起源。1967（昭和42）年に文学部のみの単科女子大学として開学。以降、看護学部、現代ビジネス学部、健康科学部、発達教育学部、国際英語学部を開設し、現在は、6学部13学科を擁する総合大学となっている。

●京都薬科大学（学生数2,232人）

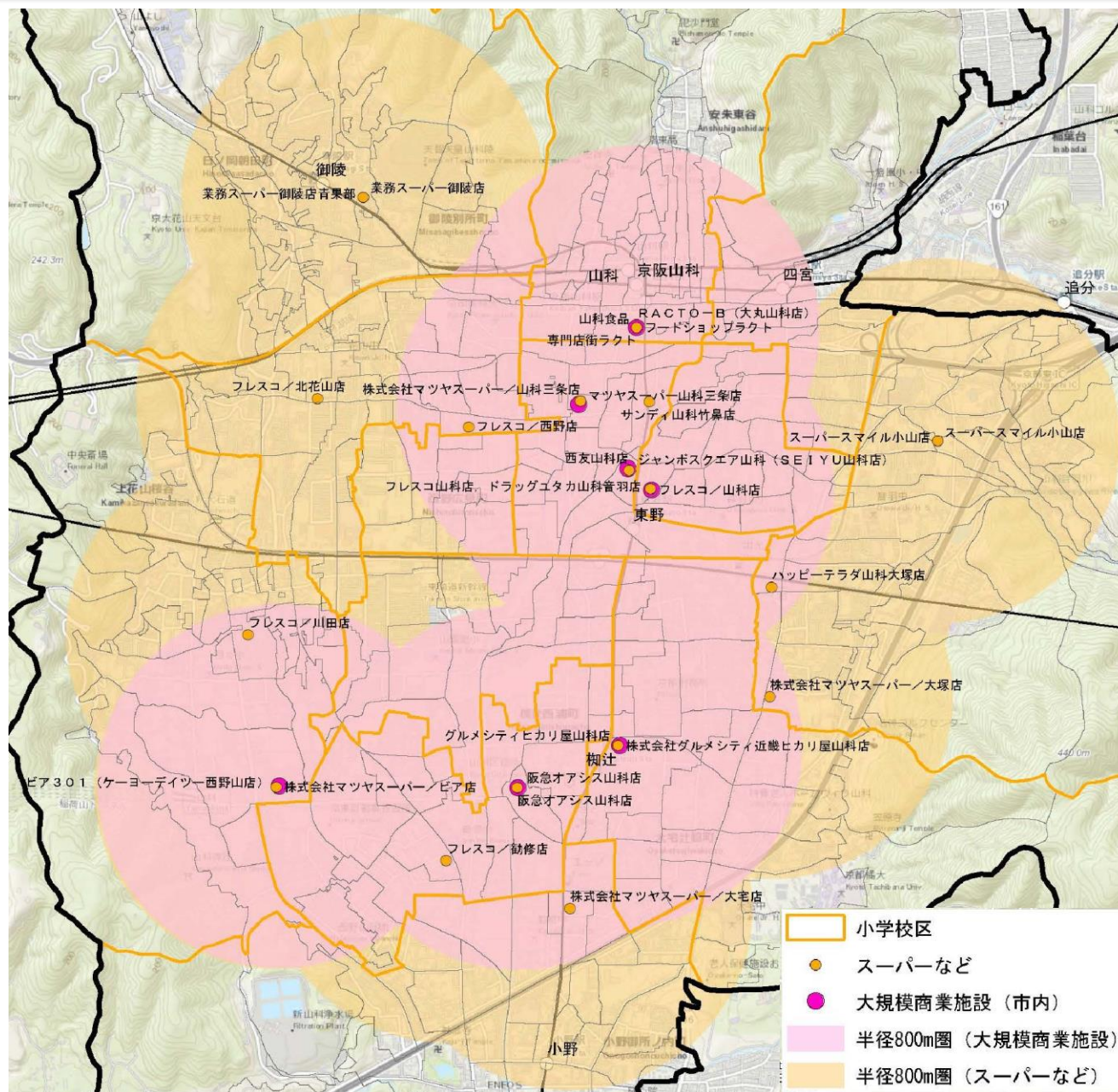
1884（明治17）年に創立された京都私立独逸学校に始まる、薬系私立大学では日本で2番目の歴史と伝統を持つ。1892（明治25）年に私立京都薬学校、1919（大正8）年に京都薬学専門学校を経て、1949（昭和24）年に京都薬科大学として認可された。

2. 山科の「まち」 学校, 保育所の立地状況



- 小学校区
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 大学
- 幼稚園
- 保育所

2. 山科の「まち」 主な商業施設の立地状況



2. 山科の「まち」 大型商業施設(小売店)数

- 山科区の人口1万人当たりの大型商業施設(小売店)数は、全市平均よりはやや少ないが、全市で上から5番目となっており、大型デパート等が集積する中京区、下京区、南区以外では、比較的多い。

	大型商業施設 (小売店)の数(店)	人口1万人当たりの大型商 業施設(小売店)の数(店)
京都市	245	1.66
北区	11	0.92
上京区	12	1.41
左京区	30	1.78
中京区	28	2.56
東山区	3	0.77
山科区	20	1.48
下京区	32	3.87
南区	33	3.3
右京区	28	1.37
西京区	18	1.19
伏見区	30	1.07

2. 山科の「まち」 文化財

- 山科区内に位置する文化財(※)は31件であり、京都市内の行政区の中で数は最下位となっている。

※国宝, 重要文化財, 史跡・名勝・天然記念物, 京都府・京都市指定文化財を指す。



● 勧修寺

真言宗の寺院。本堂は寛文2年(1662)造営の仮皇居内侍所仮殿の旧材を用いて、同12年に灌頂道場として建築されたものである。



● 毘沙門堂

天台宗の門跡寺院。本堂(寛文6年・1666)は徳川家綱の援助で建立された。

2. 山科の「まち」 観光

- 観光客の訪問先について、平成28年の調査で「山科周辺」は2.2％で20位であった。
- なお、平成27年の調査では、10歳代と20歳代の訪問がほとんどなく、60歳代以上の割合がやや高くなっている。

京都観光総合調査に見る日本人観光客の訪問地の割合（％）

	訪問地	28年	27年
1	京都駅周辺	51.7	44.6③
2	清水・祇園周辺	51.3	51.0①
3	河原町三条・四条周辺	28.8	29.4④
4	嵯峨嵐山周辺	26.8	48.8②
5	岡崎・蹴上周辺	20.7	18.5⑦
6	きぬかけの路周辺	16.6	17.6⑧
7	伏見周辺	15.3	11.3⑨
8	東山七条周辺	14.6	21.1⑤
9	銀閣寺・哲学の道・百万遍周辺	12.5	19.2⑥
10	二条城・壬生周辺	10.9	6.8⑫
11	下鴨・北山周辺	8.6	6.8⑬
12	京都御所周辺	8.1	5.7⑭
13	上賀茂・鷹峯・紫野周辺	7.7	6.9⑪
14	西陣・北野周辺	6.9	8.6⑩
15	松尾・桂周辺	4.2	4.7⑮

16	鞍馬・貴船周辺	3.7	3.1⑳
17	太秦・花園周辺	3.4	6.6⑱
18	烏丸御池・烏丸四条周辺	3.3	4.0⑰
19	大原・八瀬周辺	3.1	4.3⑯
20	山科周辺	2.2	2.7㉑
21	一乗寺・修学院周辺	2.0	2.6㉒
22	高雄周辺	1.9	3.3⑲
23	岩倉周辺	0.5	0.5㉔
24	醍醐周辺	0.5	1.2㉓
25	大枝・大原野周辺	0.1	0.1㉕
			①は順位

注1：複数回答のため、合計が100%とならない。
注2：左欄の数字は、平成28年の順位(割合の高い順)である。
注3：丸数字は、平成27年の順位(割合の高い順)である。

～ まとめ ～

<土地利用の状況>

土地利用については、盆地内部の**大半は住宅地**で、幹線道路(五条通, 外環状線)沿いに商業地が集まる。

新十条通北部, 名神高速道路南部には農地が点在している。

新たに活用できるまとまった土地が乏しい。

<住宅の建築時期>

昭和30年代後半から昭和50年代前半にかけて住宅が急速に建築され, この時期の住宅の割合が全市平均より高くなっている。

<空き家の状況>

空き家率は14.5%と全市平均を上回っており, 1万戸を超える空き家(10,140戸)が存在している。

～ まとめ ～

<産業>

卸売，製造業事業所数は，それぞれ全市で下から4番目，小売業事業所数は，全市で下から2番目となっている。

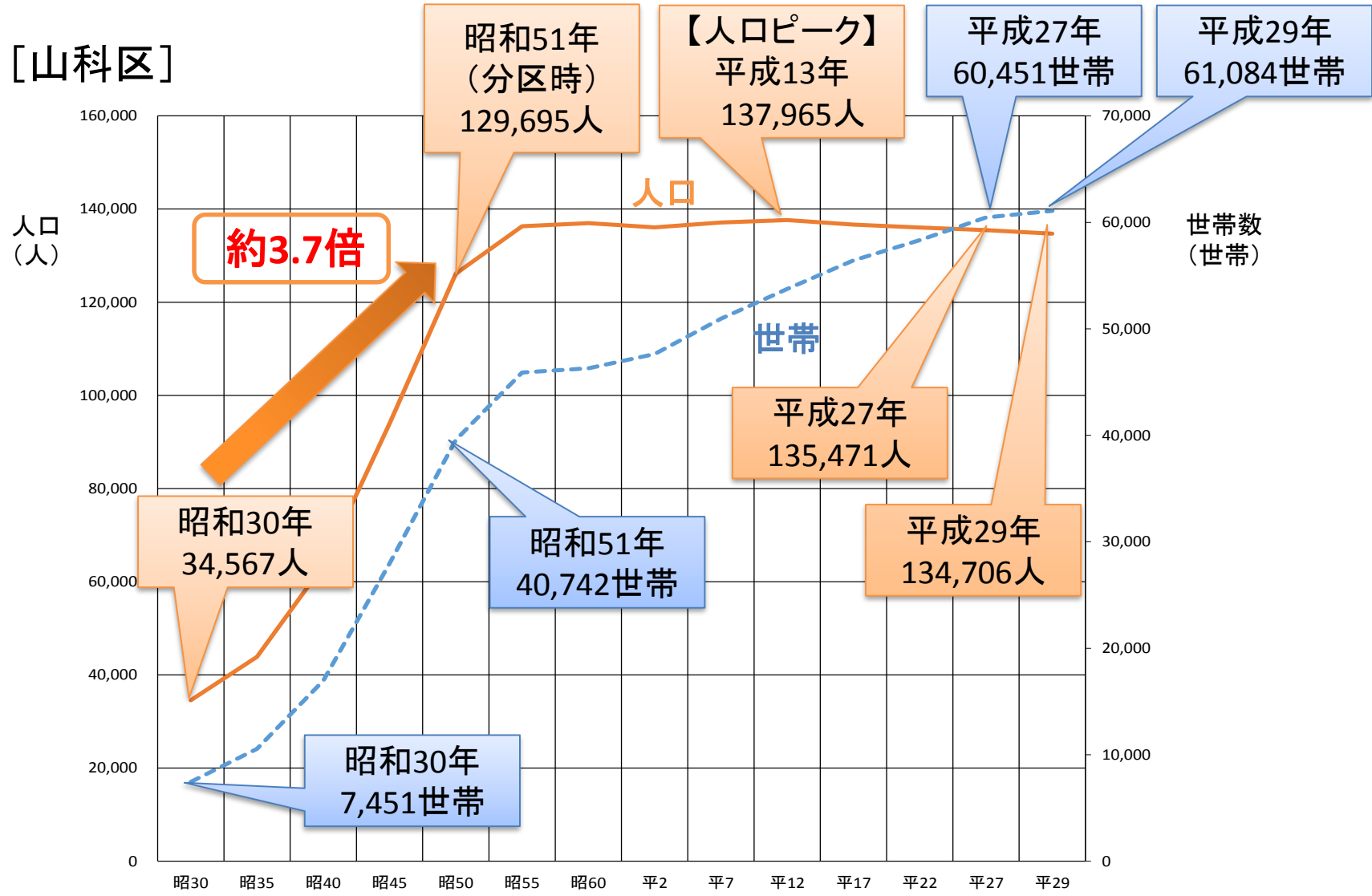
<福祉>

保育所については，利用定員を利用児童数が下回っており，定員充足率は全市で下から4番目に低い。

3. 山科の「ひと」

3. 山科の「ひと」 人口と世帯数の推移

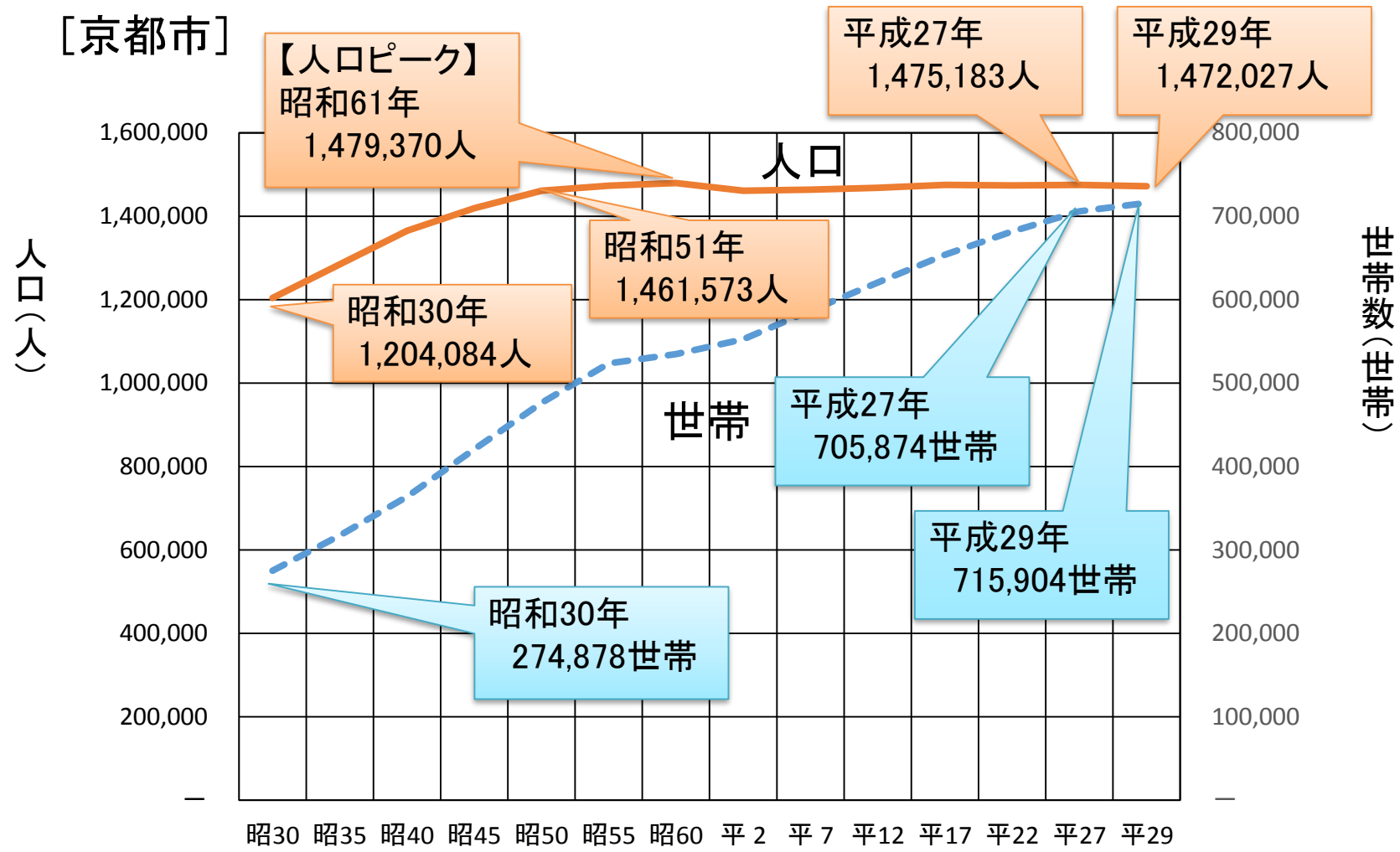
- ・ 昭和30～40年代に急激に人口増加(昭和30年～分区時の昭和51年で人口約3.7倍)
- ・ その後、13万人前後で横ばいに推移。ここ数年は、ゆるやかに減少。



(出典: 国勢調査 ※国勢調査の実施年以外は京都市推計人口(H29.10月時点))

3. 山科の「ひと」 (参考)京都市全体の人口と世帯数の推移

・ 昭和30年～分区時の昭和51年までに、山科区では人口が約3.7倍に増加(95,128人増)、同時期に京都市全体では約21%増(257,489人増)となっており、京都市の人口増加の約37%を山科区が占めている。



(出典: 国勢調査 ※国勢調査の実施年以外は京都市推計人口(H29.10月時点)) 40

3. 山科の「ひと」 学区別の人口の推移

- ・ 音羽川と小野の2学区が平成7⇒17, 平成17⇒27で人口増加が続いている。
- ・ 山階南, 西野, 山階, 大塚学区が平成17⇒27で人口が微増に転じているが, それ以外では減少している。

人口	国勢調査			推計人口
	平成7年	平成17年	平成27年	平成29年10月
山科区	137,104	↘ 136,670	↘ 135,471	134,706
勸修	12,419	↗ 13,197	↘ 12,360	12,120
山階南	10,792	↘ 10,219	↗ 10,732	10,850
鏡山	14,081	↘ 12,906	↘ 12,621	12,448
西野	6,384	↘ 5,074	↗ 5,738	5,799
山階	8,165	↘ 7,315	↗ 7,479	7,751
音羽川	7,412	↗ 8,584	↗ 8,951	8,916
音羽	10,040	↘ 8,918	↘ 8,569	8,506
大塚	12,778	↘ 12,309	↗ 12,410	12,246
大宅	17,089	↗ 18,419	↘ 17,772	17,489
小野	8,680	↗ 10,474	↗ 10,661	10,740
百々	11,736	↘ 11,585	↘ 11,393	11,211
陵ヶ岡	11,514	↘ 11,384	↘ 10,544	10,430
安朱	6,014	↗ 6,286	↘ 6,241	6,200

(赤字は人口減少学区) ※平成29年10月の人口は京都市統計書による。

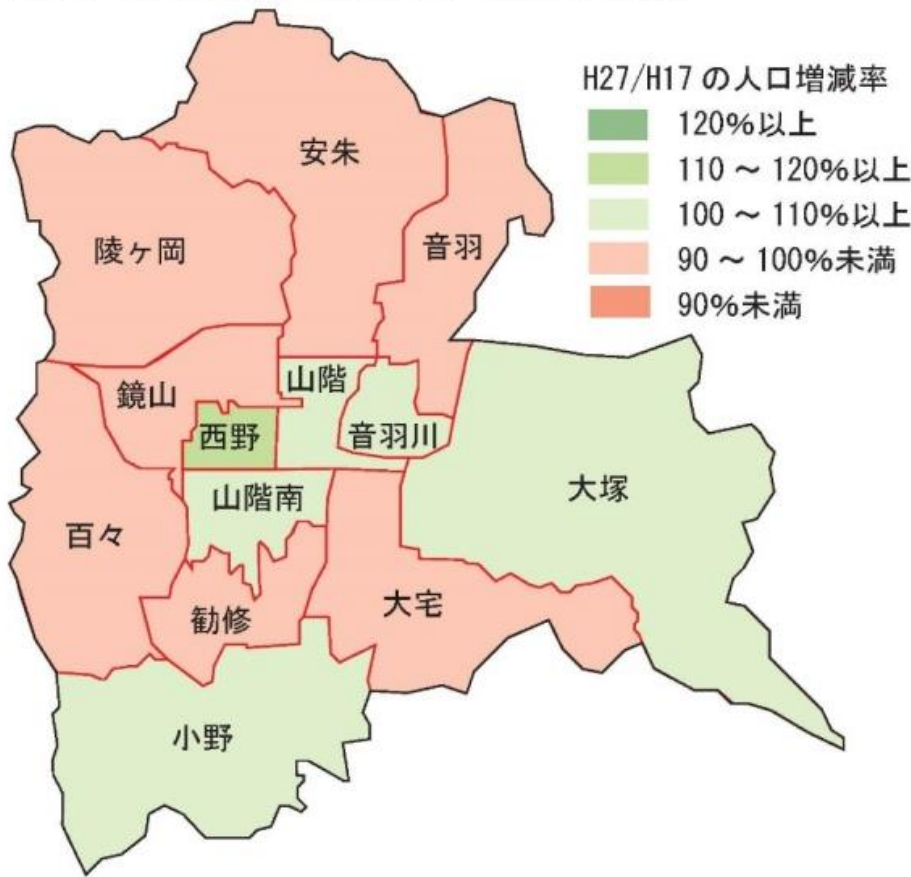
3. 山科の「ひと」学区別の人口の推移

- ・ 音羽川と小野の2学区が平成7⇒17, 平成17⇒27で人口増加が続いている。
- ・ 山階南, 西野, 山階, 大塚学区が平成17⇒27で人口が微増に転じているが, それ以外では減少している。

各学区の人口増減率

	H17/H7	H27/H17
山科区	0.99	0.99
勸修	1.06	0.94
山階南	0.95	1.05
鏡山	0.92	0.98
西野	0.79	1.13
山階	0.90	1.02
音羽川	1.16	1.04
音羽	0.89	0.96
大塚	0.96	1.01
大宅	1.08	0.96
小野	1.21	1.02
百々	0.99	0.98
陵ヶ岡	0.99	0.93
安朱	1.05	0.99
赤字＝減少学区		

平成 17 年から平成 27 年までの 10 年間の人口増減



3. 山科の「ひと」 人口と世帯数(行政区別比較)

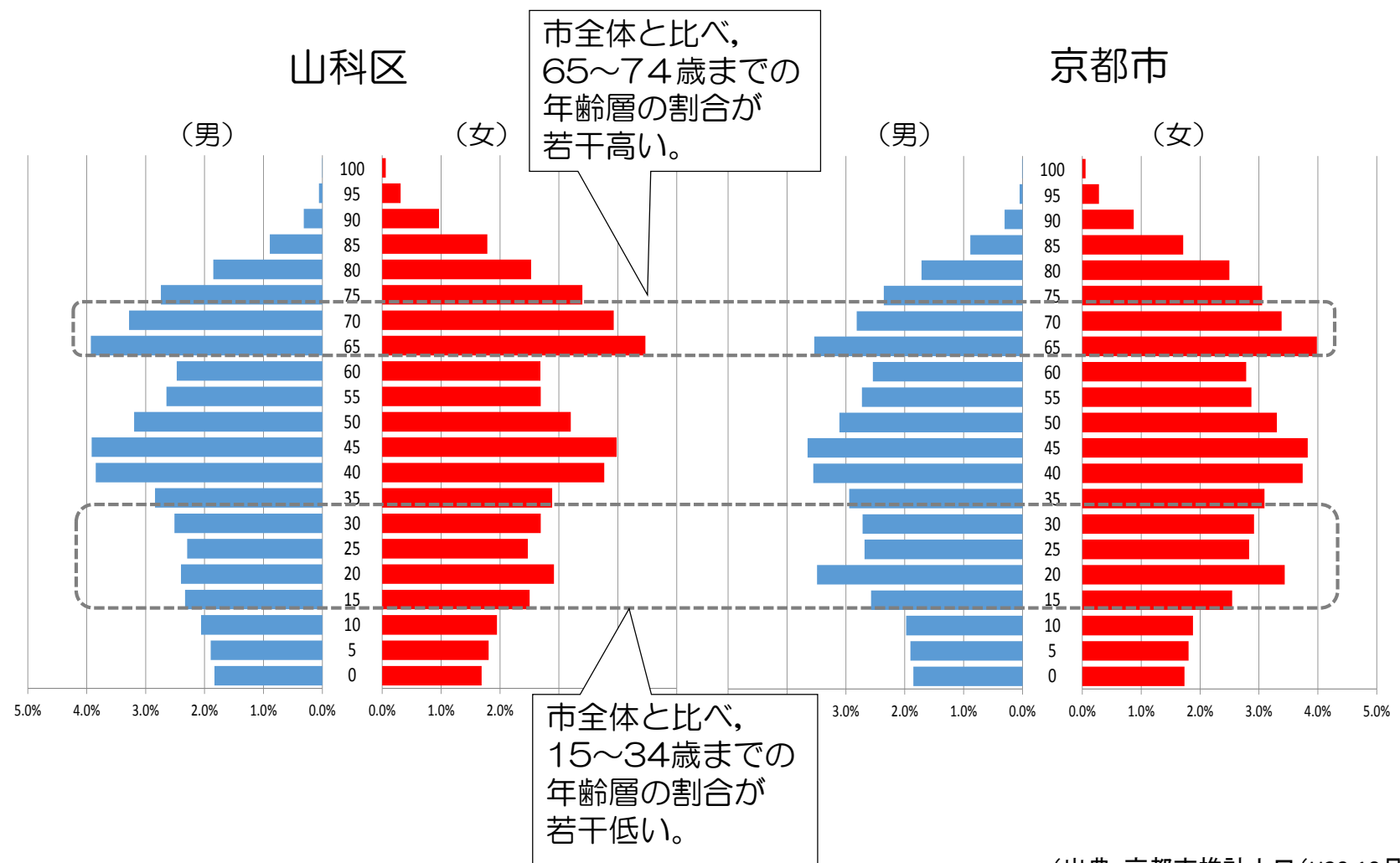
- 京都市内の11区の中で、山科区の人口、世帯数はともに5位に位置している。
※京都市民の10人に1人は、山科区民。

京都市の人口・世帯数（平成29年度）

行政区	人口		世帯数	
	人数	順位	世帯数	順位
京都市	1,472,027		715,904	
北 区	118,888	6	57,370	7
上京区	84,953	9	47,485	10
左京区	168,128	3	84,396	3
中京区	110,810	7	60,671	6
東山区	37,986	11	21,065	11
山科区	134,706	5	61,084	5
下京区	82,732	10	47,532	9
南 区	100,950	8	48,446	8
右京区	203,878	2	96,246	2
西京区	150,099	4	63,856	4
伏見区	278,897	1	127,753	1

3. 山科の「ひと」 年齢別人口の状況

- 京都市全体の年齢別人口の割合とほぼ一致するが、市全体と比べて65～74歳までの高齢者の年齢層の割合が若干高く、15～34歳までの年齢層の割合が若干低くなっている。



3. 山科の「ひと」 高齢化率(行政区別比較)

・ 山科区の高齢化率(総人口に占める65歳以上の人口の割合)は、平成7年は全市で下から2番目の低さであったが、この20年間で急速に高齢化が進み、直近では東山区、北区に次いで、**全市で3番目に高い**。

	京都市	北	上京	左京	中京	東山	山科	下京	南	右京	西京	伏見
平成7年	14.7	⑤ 16.1	③ 20.4	⑤ 16.1	④ 19.6	① 22.4	⑩ 11.9	② 21.0	⑦ 14.2	⑧ 13.2	⑪ 10.2	⑨ 11.9
平成12年	17.4	18.8	22.4	18.8	20.9	25.5	15.4	23.0	16.9	16.6	12.5	15.0
平成17年	20.1	21.2	23.8	20.9	21.2	27.6	18.9	23.3	19.2	20.2	16.2	18.4
平成22年	23.0	24.3	25.2	23.7	23.4	30.0	23.4	22.7	21.2	23.1	20.2	22.1
平成27年	26.7	27.7	27.1	26.9	24.6	32.8	29.1	23.2	24.5	27.0	25.6	26.7
平成29年	27.3	② 29.6	④ 29.1	⑤ 28.5	⑩ 25.2	① 34.1	③ 29.5	⑪ 24.4	⑨ 25.5	⑥ 27.8	⑧ 26.1	⑦ 27.3

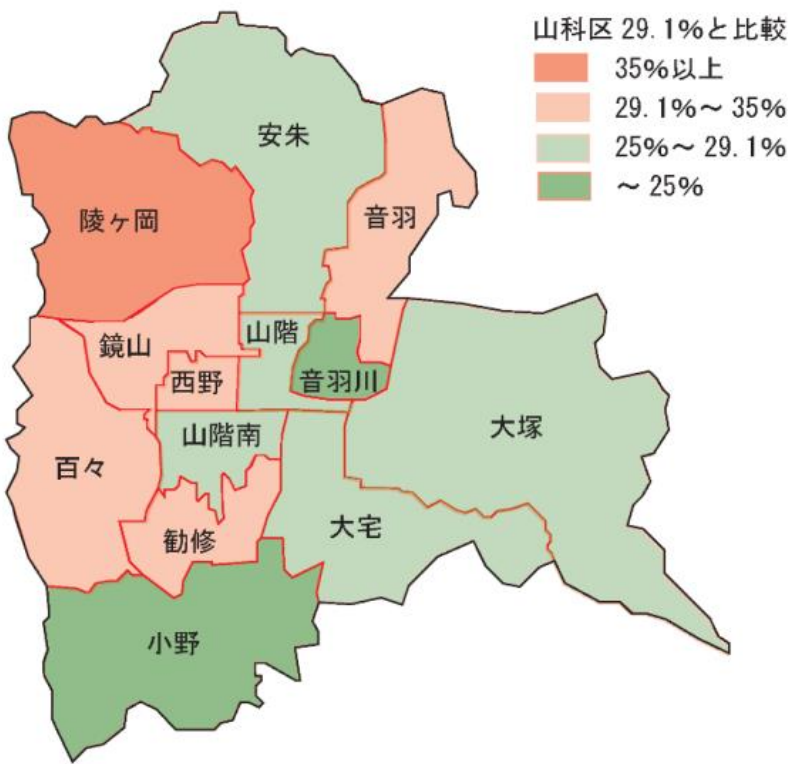
＜丸数字は、行政区別の順位（高い順）＞

3. 山科の「ひと」学区別の高齢化率

- 平成17年では区平均の高齢化率を超えた学区はほぼ五条通以北に集中していたが、平成27年ではやや南西部の学区に変化している。
- 学区別では、陵ヶ岡、西野、勧修、音羽学区の順に高い。
- 西野学区では、この20年間で、最も高齢化が進んでいる(25ポイント増加)。

●国勢調査での65歳以上人口比率			
65歳以上	平成7年	平成17年	平成27年
山科区	11.9%	18.9%	29.1%
勧修	10.6%	18.3%	32.0%
山階南	8.7%	16.4%	26.5%
鏡山	7.6%	20.3%	29.7%
西野	8.6%	20.7%	33.8%
山階	10.7%	19.7%	28.3%
音羽川	12.6%	17.4%	24.8%
音羽	12.1%	17.4%	31.7%
大塚	10.0%	16.5%	29.0%
大宅	10.4%	15.7%	28.1%
小野	8.2%	13.6%	23.7%
百々	10.2%	16.7%	29.5%
陵ヶ岡	24.4%	34.0%	39.4%
安朱	17.9%	20.4%	25.1%
		区平均を上回る	

平成 27 年高齢化率の山科区と学区の比較（山科区：29.1%）



3. 山科の「ひと」 生産年齢人口比率(行政区別比較)

・ 山科区の生産年齢人口比率(総人口に占める15歳以上～65歳未満の人口の割合)は、平成7年は全市で最も高かったが、この20年間で減少が進み、直近では東山区に次いで、**全市で2番目に低い**。

	(%)											
	京都市	北	上京	左京	中京	東山	山科	下京	南	右京	西京	伏見
平成7年	71.6	⑥ 71.4	⑧ 69.6	④ 72.0	⑨ 69.5	⑩ 68.6	① 73.5	⑪ 68.5	⑦ 70.8	② 72.8	④ 72.0	③ 72.1
平成12年	69.8	69.2	68.0	69.9	68.8	66.6	71.3	67.1	69.5	70.1	71.3	70.5
平成17年	67.8	67.2	66.9	68.5	68.9	65.0	68.3	67.1	68.2	67.0	68.5	67.9
平成22年	65.1	64.2	65.2	65.6	66.0	62.8	64.2	67.5	66.6	64.6	65.3	64.7
平成27年	60.1	61.5	63.4	62.4	64.8	59.4	59.3	67.1	63.7	61.2	61.0	61.2
平成29年	61.0	⑨ 59.2	⑥ 60.5	⑧ 59.9	② 63.6	⑪ 57.6	⑩ 58.8	① 65.1	③ 62.6	⑦ 60.4	④ 60.7	④ 60.7

< 丸数字は、行政区別の順位（高い順） >

3. 山科の「ひと」 年少人口比率(行政区別比較)

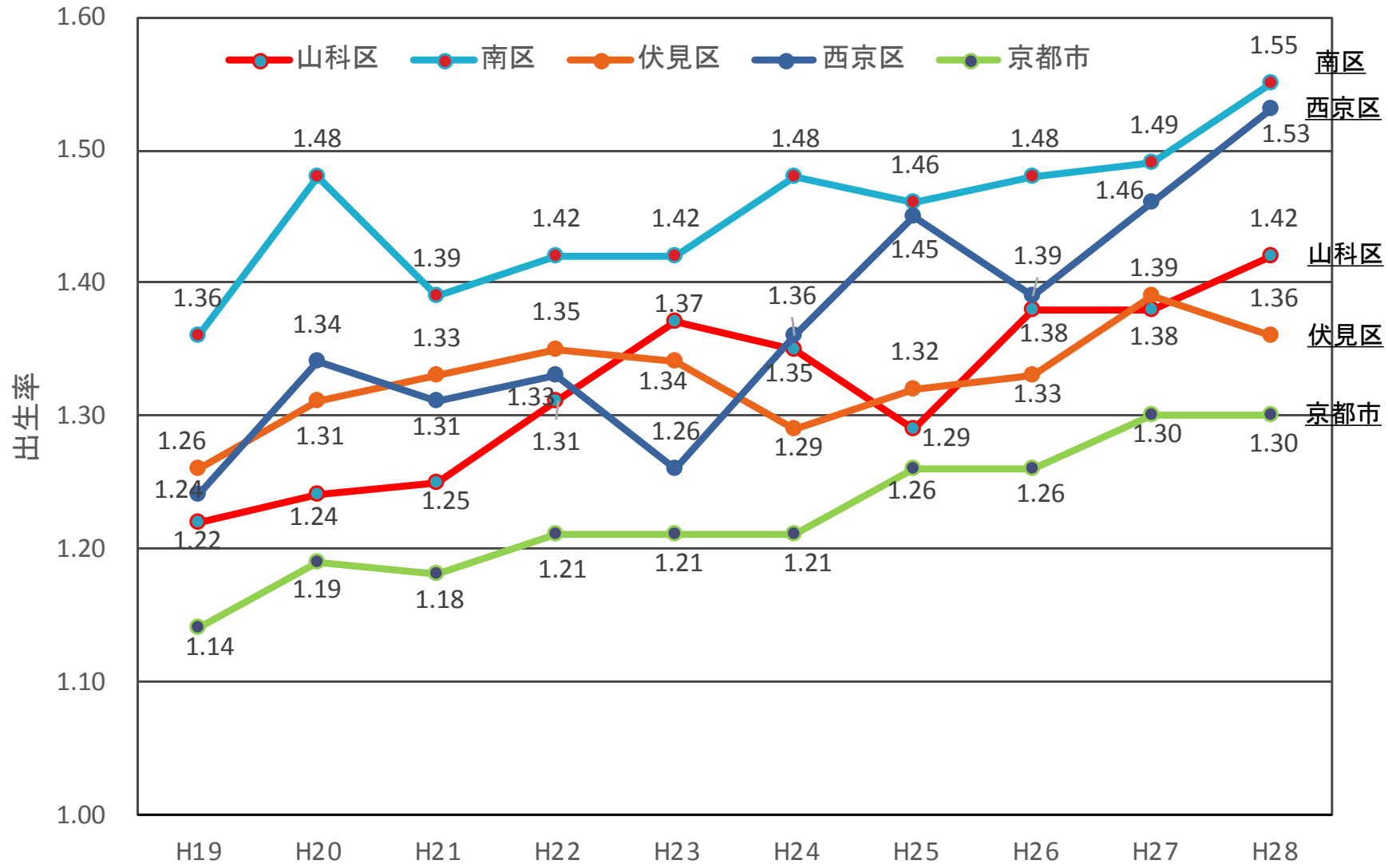
・ 山科区の年少人口比率(総人口に占める15歳未満の人口の割合)は、平成7年から減少が進んでいる。直近では微増に転じている。

	(%)											
	京都市	北	上京	左京	中京	東山	山科	下京	南	右京	西京	伏見
平成7年	13.8	⑥ 12.4	⑩ 10.0	⑦ 12.0	⑧ 10.9	⑪ 8.9	④ 14.5	⑨ 10.4	③ 15.1	⑤ 14.0	① 17.8	② 16.0
平成12年	12.8	12.0	9.6	11.2	10.4	7.9	13.4	9.8	13.6	13.3	16.2	14.5
平成17年	12.1	11.6	9.3	10.6	9.9	7.4	12.8	9.6	12.6	12.8	15.2	13.7
平成22年	11.9	11.4	9.6	10.7	10.6	7.1	12.5	9.8	12.3	12.3	14.4	13.2
平成27年	11.0	10.7	9.6	10.7	10.5	7.8	11.6	9.8	11.8	11.8	13.3	12.1
平成29年	11.3	⑦ 11.3	⑨ 10.4	⑥ 11.6	⑧ 11.2	⑪ 8.3	⑤ 11.7	⑨ 10.4	③ 11.8	③ 11.8	① 13.2	② 12.0

< 丸数字は、行政区別の順位（高い順） >

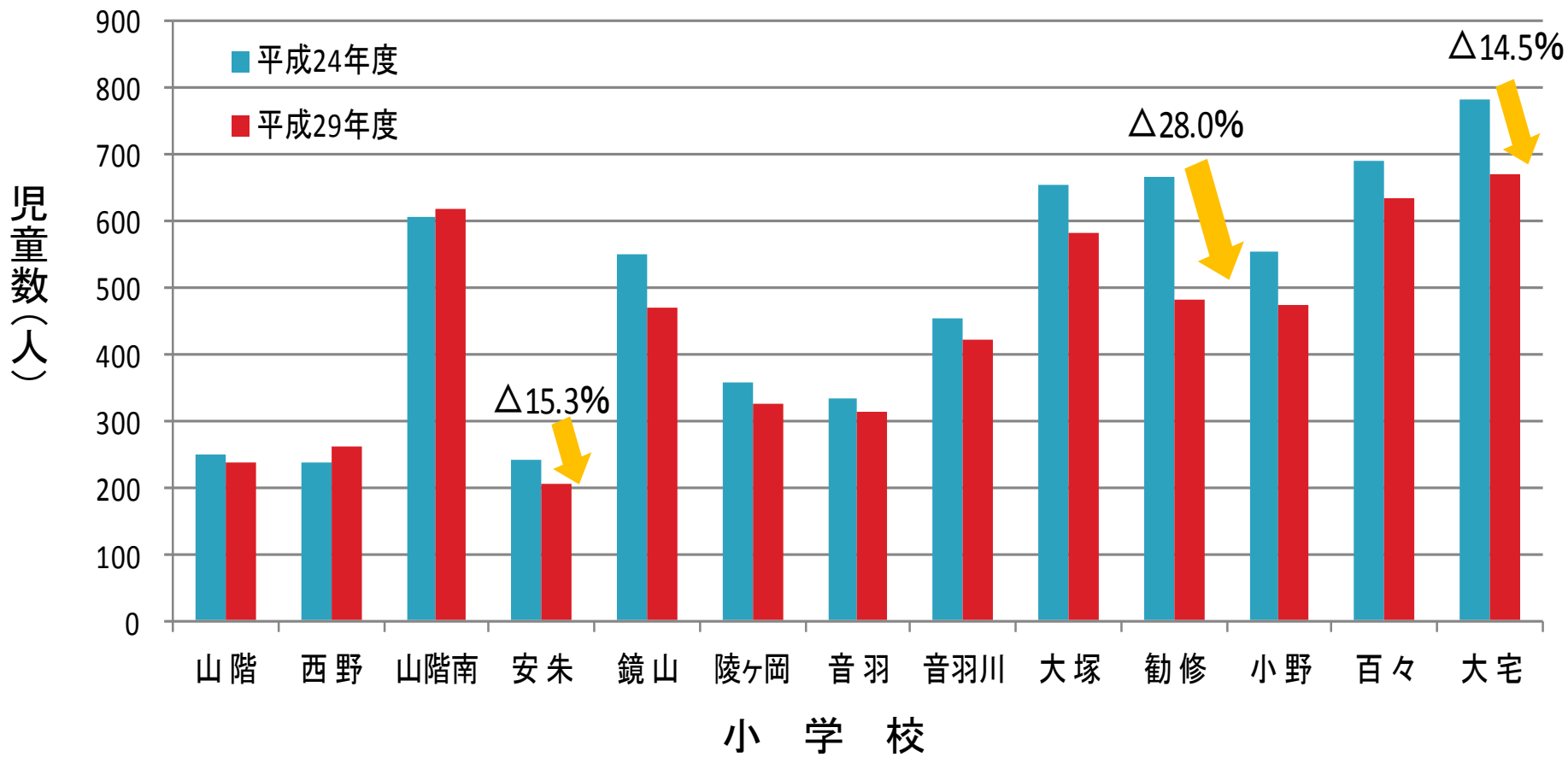
3. 山科の「ひと」 出生率

・ 山科区の出生率は、近年は増加傾向にあり、直近では全市で上から3番目に高い。



2. 山科の「ひと」 小学校児童数(山科区内の公立小学校)

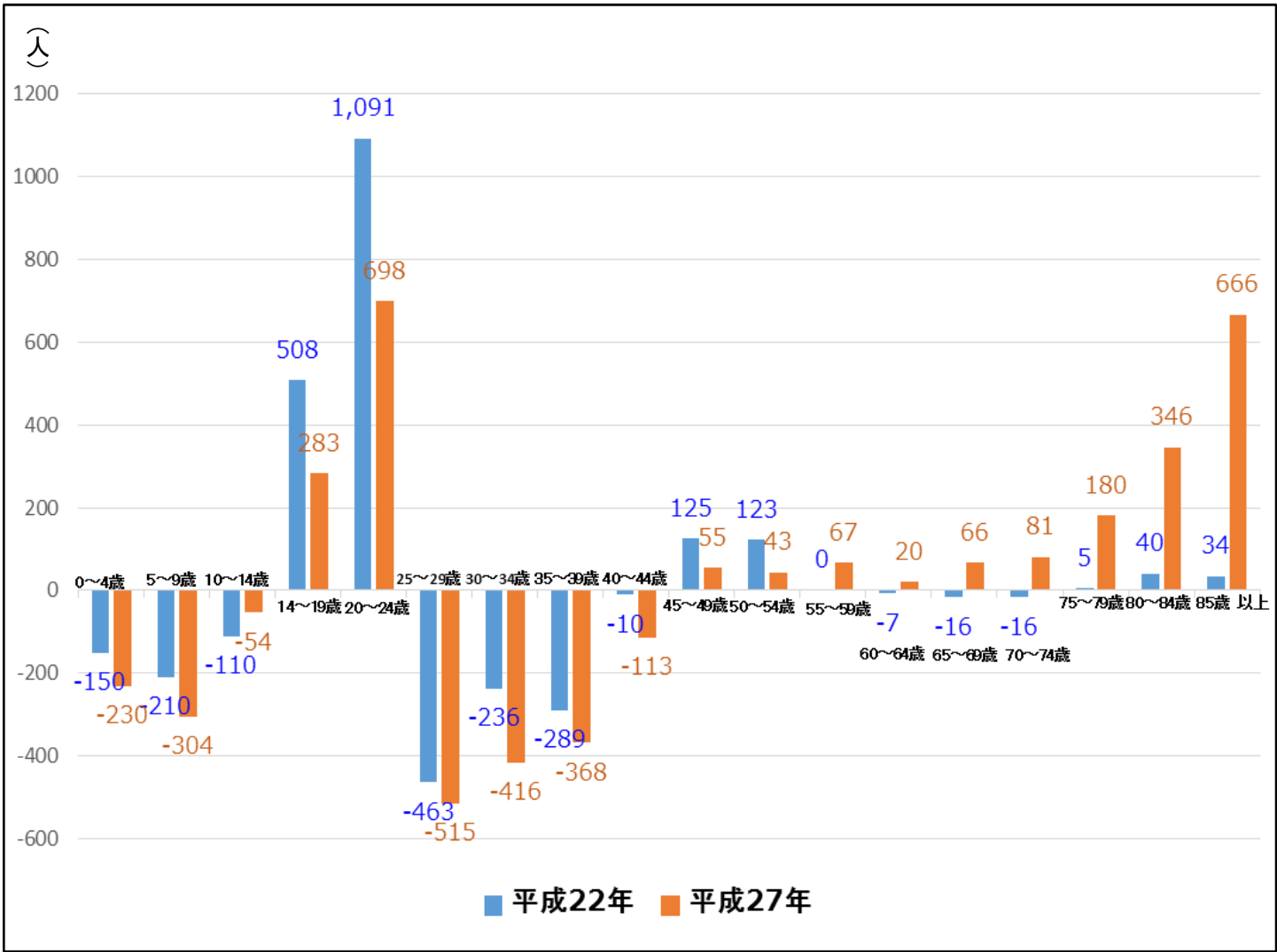
・ 山科区内の公立小学校の児童数は、一部の小学校を除いて減少傾向であり、平成24年度から平成29年度までの5年間で、区全体で10.7%減少(全市:4.2%減)している。



(出典:京都市統計資料)

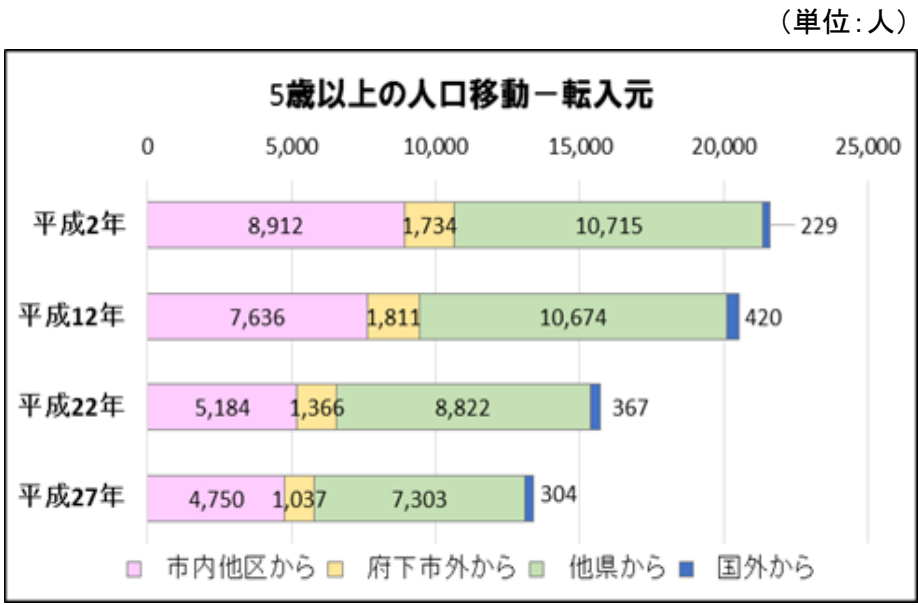
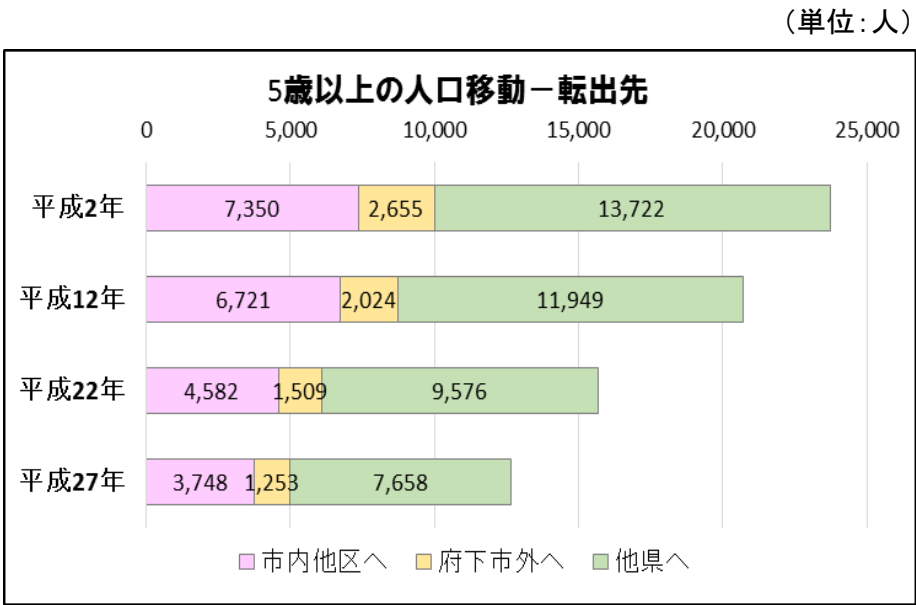
3. 山科の「ひと」 年齢別の社会増減

- 14～24歳の年齢層で大きく社会増となっている一方、0～14歳、25～44歳の年齢層では社会減となっている。
- 平成27年の調査では、75歳以上の年齢層で大きく社会増となっている。



3. 山科の「ひと」 転出入者の状況

- ・ 転出者数は平成2年，平成12年と2万人台を超えたが，その後は減少傾向。市外への転出先としては大津市への比率が最も高く，市外への転出者のほぼ2割前後を占める。
- ・ 転入者も転出者同様に減少傾向。市外からの転入元としては大津市と大阪市の比率が高くなっている。



< 転出先 > (単位: 人)

	平成27年	転出
第1位	大津市	1,514
第2位	伏見区	1,408
第3位	宇治市	437
第4位	右京区	417
第5位	大阪市	412

< 転入元 > (単位: 人)

	平成27年	転入
第1位	伏見区	1,490
第2位	大津市	902
第3位	左京区	636
第4位	大阪市	543
第5位	宇治市	321

3. 山科の「ひと」 通学における流出入数

- ・ 通学における流出者数の人口比は、全市平均と同程度であるが、流入者数の人口比は、下から2番目に少ない。
- ・ 流入超過数、人口に対する割合も、流出超過となっている西京区以外では最も少ない。

地域	人口(人)	流出者数(人)	流出者数 人口比	流入者数(人)	流入者数 人口比	流入者数－流 出者数(人)	人口に対す る割合
京都市	1,475,183	13,345	0.9%	62,184	4.2%	48,839	3.3%
北区	119,474	964	0.8%	11,065	9.3%	10,101	8.5%
上京区	85,113	648	0.8%	9,148	10.7%	8,500	10.0%
左京区	168,266	1,335	0.8%	11,327	6.7%	9,992	5.9%
中京区	109,341	963	0.9%	4,722	4.3%	3,759	3.4%
東山区	39,044	278	0.7%	5,016	12.8%	4,738	12.1%
山科区	135,471	1,263	0.9%	2,868	2.1%	1,605	1.2%
下京区	82,668	763	0.9%	3,400	4.1%	2,637	3.2%
南区	99,927	927	0.9%	2,725	2.7%	1,798	1.8%
右京区	204,262	1,714	0.8%	5,119	2.5%	3,405	1.7%
西京区	150,962	2,126	1.4%	2,121	1.4%	－5	0.0%
伏見区	280,655	3,365	1.2%	8,361	3.0%	4,996	1.8%

流出者数：地域から通学者（15歳以上）として流出する人口
流入者数：その地域へ通学者（15歳以上）として流入する人口
※ 夜間の学校に通っている者も、便宜上、昼間通学者と見なしている。

（出典：平成27年国勢調査）

3. 山科の「ひと」 通勤における流出入数

- ・ 通勤における流出者数の人口比は、全市で上から4番目に多く、全市平均よりもやや多い。
- ・ 流入者数の人口比は、下から5番目に少ない。
- ・ 流出超過となっているのは、山科区と西京区のみである。

地域	人口(人)	流出者数(人)	流出者数 人口比	流入者数(人)	流入者数 人口比	流入者数－流 出者数(人)	人口に対する 割合
京都市	1,475,183	100,195	6.8%	181,703	12.3%	81,508	5.5%
北区	119,474	4,584	3.8%	6,967	5.8%	2,383	2.0%
上京区	85,113	3,895	4.6%	10,169	11.9%	6,274	7.4%
左京区	168,266	7,500	4.5%	11,418	6.8%	3,918	2.3%
中京区	109,341	6,682	6.1%	26,416	24.2%	19,734	18.0%
東山区	39,044	1,979	5.1%	6,180	15.8%	4,201	10.8%
山科区	135,471	10,165	7.5%	9,325	6.9%	-840	-0.6%
下京区	82,668	5,855	7.1%	34,286	41.5%	28,431	34.4%
南区	99,927	7,831	7.8%	26,565	26.6%	18,734	18.7%
右京区	204,262	10,684	5.2%	12,036	5.9%	1,352	0.7%
西京区	150,962	14,103	9.3%	7,007	4.6%	-7,096	-4.7%
伏見区	280,655	26,917	9.6%	31,334	11.2%	4,417	1.6%

流出者数: 地域から通勤者として流出する人口
流入者数: その地域へ通勤者として流入する人口
※ 夜間勤務の者も、便宜上、昼間就業者と見なしている。

～ まとめ ～

<人口増減>

昭和30年～51年(分区時)に人口が約3.7倍に急増した。

<高齢化率>

平成7年は全市で下から2番目の低さであったが、この20年間で急速に高齢化が進み、直近では、**全市で3番目に高くなっている。**

<生産年齢人口比率>

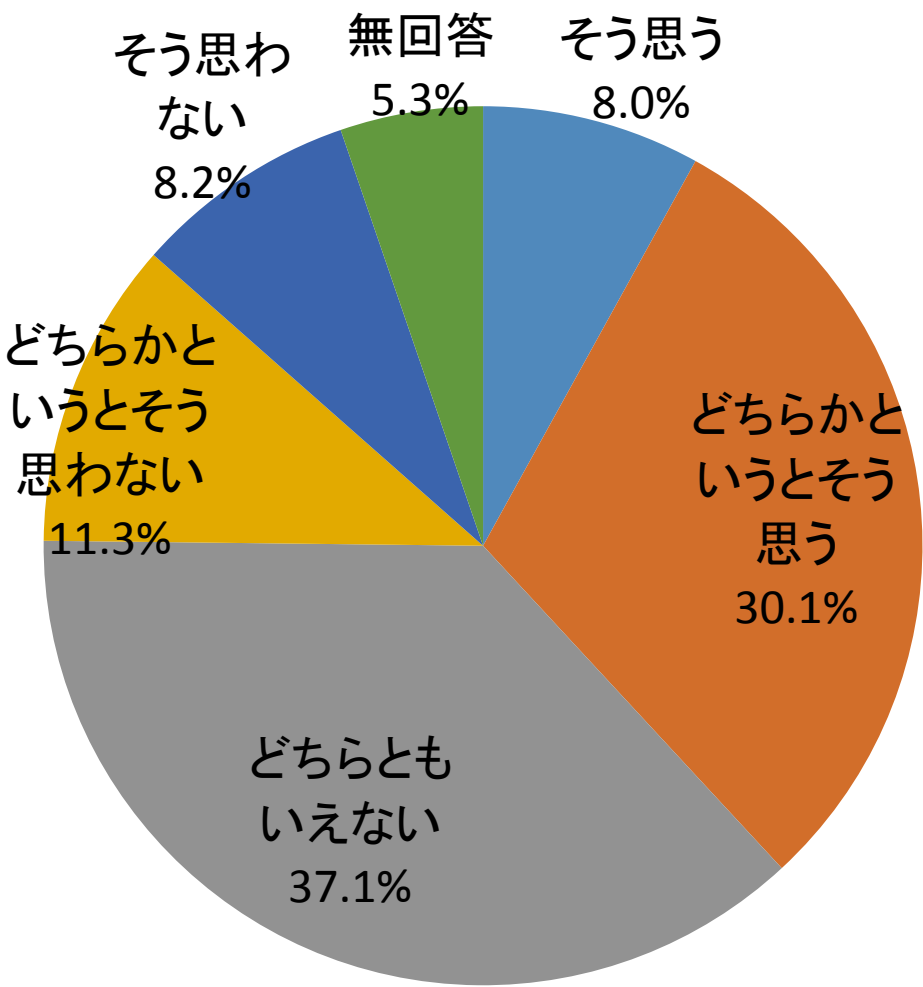
平成7年は全市で最も高かったが、この20年間で減少が進み、直近では**全市で2番目に低い。**

4. 区民が感じている今の山科

4. 区民が感じている今の山科 まちの魅力

・「まちに親しみ、まちと暮らしを十分に楽しんでいる」への肯定的な評価は約4割となっている。（否定的な評価は、約2割）

[問]
山科区では、いろいろなひと
が、山科のまちに親しみ、まち
と暮らしを十分に楽しんでいる。



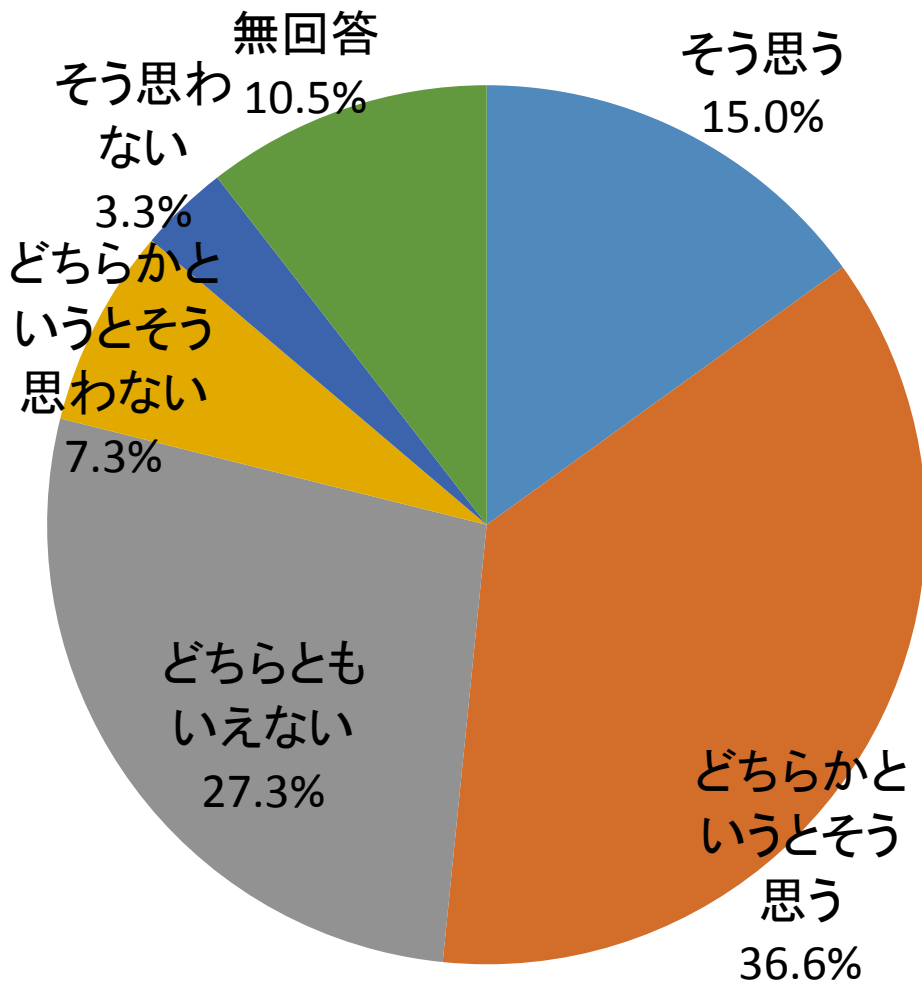
（出典：「第2期山科区基本計画」等に係るアンケート集計結果（平成28年10月実施））

4. 区民が感じている今の山科 地域コミュニティ

・ 町内会や自治会等の地域活動について、5割以上の方が活発と評価している。

[問]

山科区では、町内会や自治会等の地域活動が活発である。



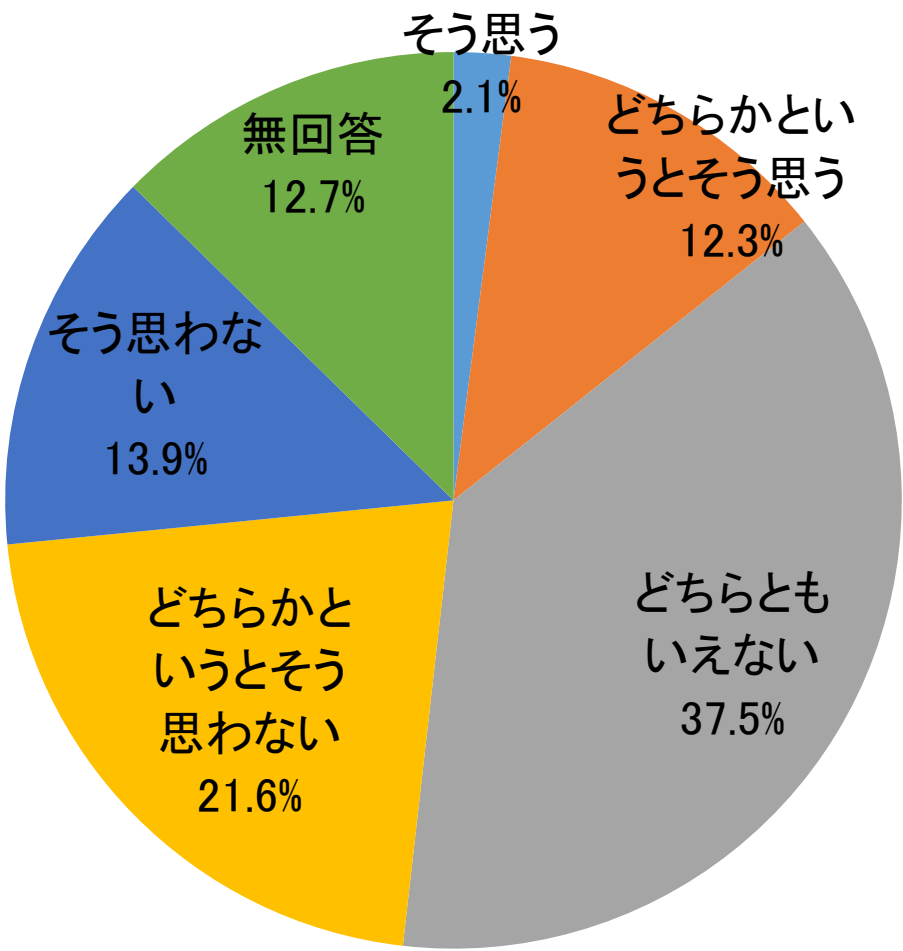
(出典:「第2期山科区基本計画」等に係るアンケート集計結果(平成28年10月実施))

4. 区民が感じている今の山科 生涯学習

・ 肯定的な回答は1.5割に留まり、生涯学習に関する更なる取組が必要。

[問]

山科区は、幅広い世代が
気軽に学ぶことができる機会
や施設が充実している。

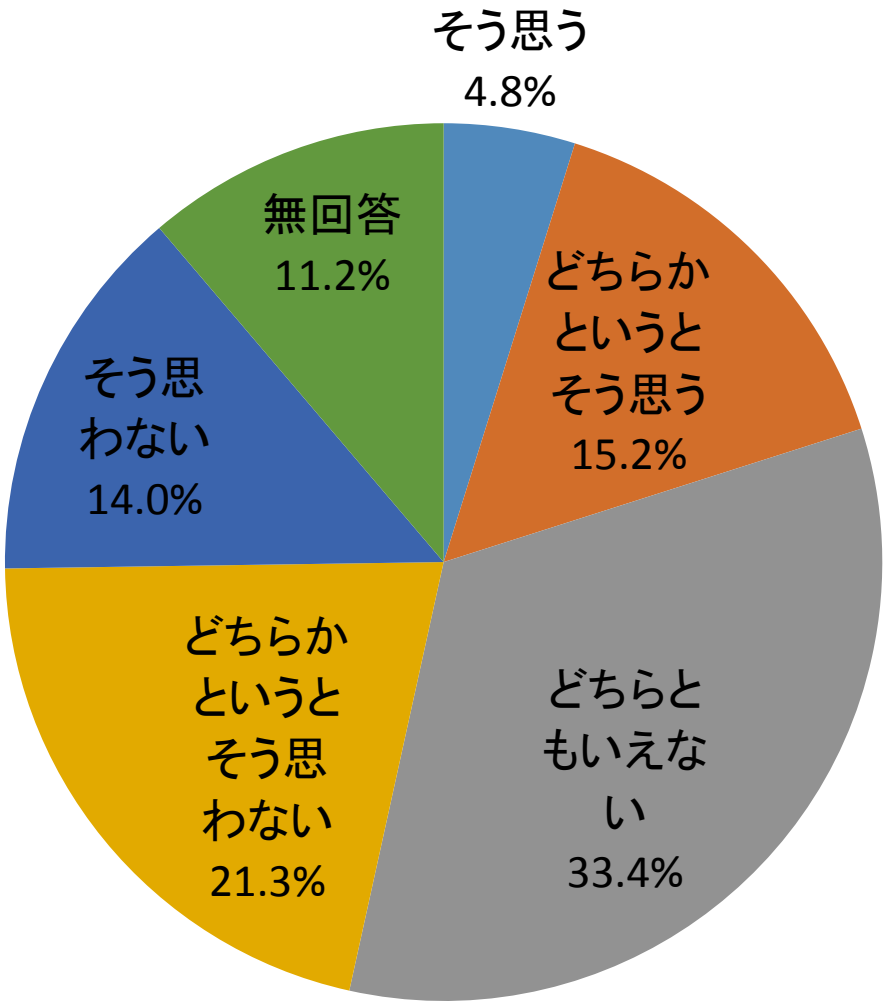


(出典:「第2期山科区基本計画」等に係るアンケート集計結果(平成28年10月実施))

4. 区民が感じている今の山科 文化・芸術活動

・ 肯定的な意見は2割にとどまり、文化・芸術活動の更なる取組が必要。

[問]
山科区では、気軽に文化・
芸術活動を行ったり鑑賞した
りすることができる。



(出典:「第2期山科区基本計画」等に係るアンケート集計結果(平成28年10月実施))

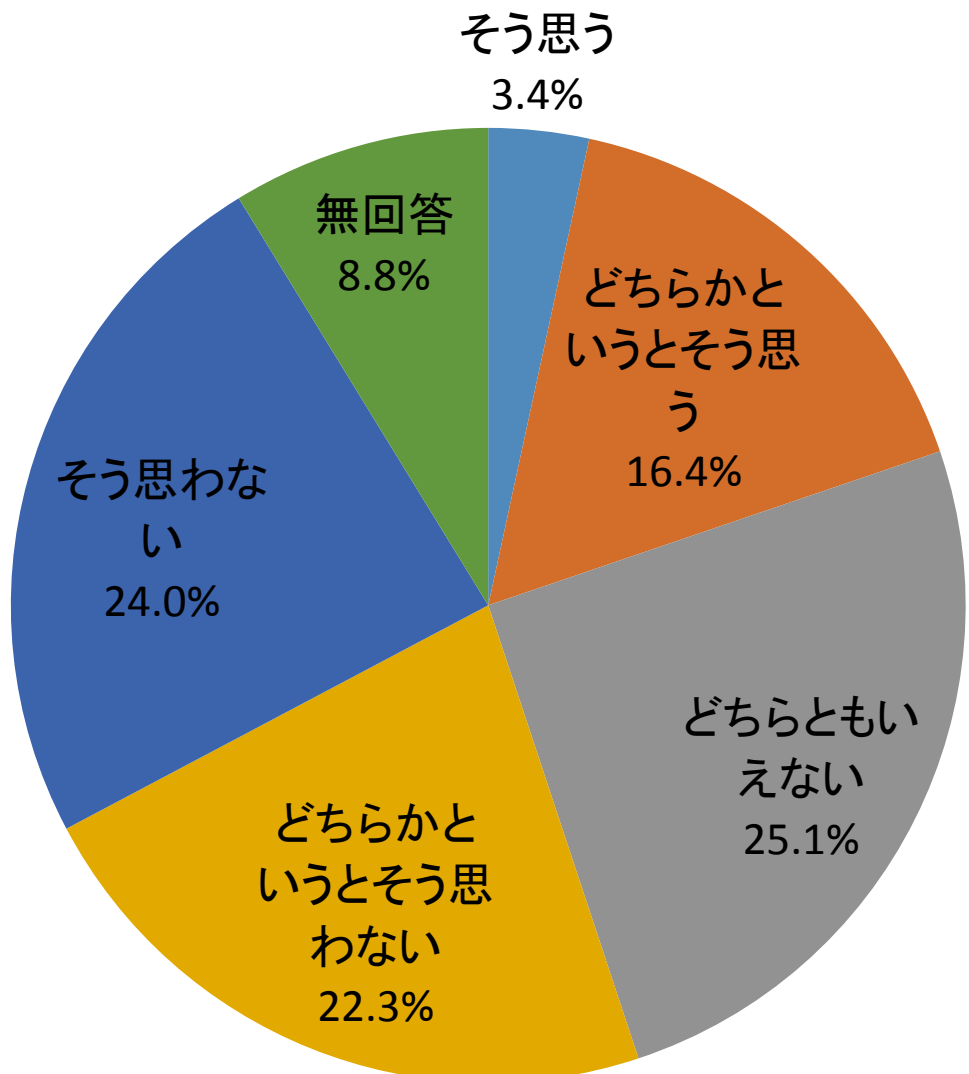
4. 区民が感じている今の山科 安心・安全

・ 治安に関しては否定的な回答が半数近くあり、平成28年の人口当たり犯罪数が11行政区中で2番目に少ないという客観的事実とギャップがある。

[問]
山科区は、犯罪や事故が少なく、安心して暮らせるまちである。

【参考】刑法犯認知件数(平成28年)

	刑法犯 総数	人口(千人)当たり 刑法犯数	順位
北区	923	7.75	3
上京区	785	9.21	7
左京区	1,307	7.76	4
中京区	1,801	16.30	10
東山区	554	14.41	9
山科区	873	6.47	2
下京区	1,568	18.95	11
南区	1,316	13.05	8
右京区	1,633	7.99	5
西京区	809	5.38	1
伏見区	2,261	8.07	6
京都市	13,880	9.41	—



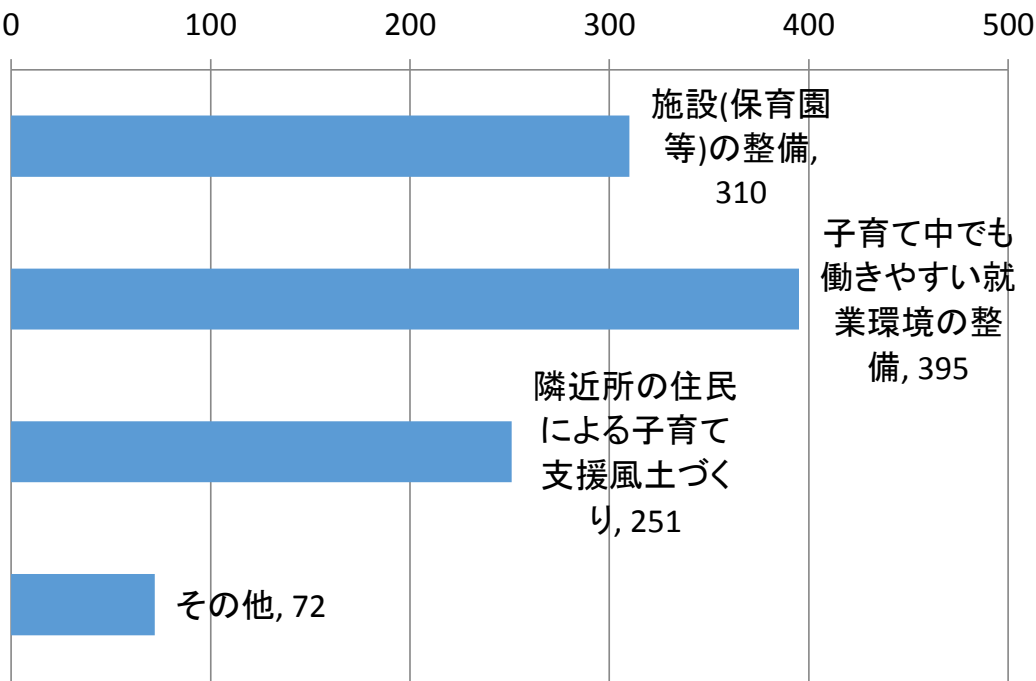
(出典:「第2期山科区基本計画」等に係るアンケート集計結果(平成28年10月実施))

4. 区民が感じている今の山科 子育て環境

・「子育て中でも働きやすい就業環境の整備」を求める回答が多い。

[問]

山科区を、子育てしやすいまちにするために必要なことは何だと思いますか。該当する番号を選び○を付けてください。当てはまらない場合は、その他にお書きください。
＜複数回答可＞

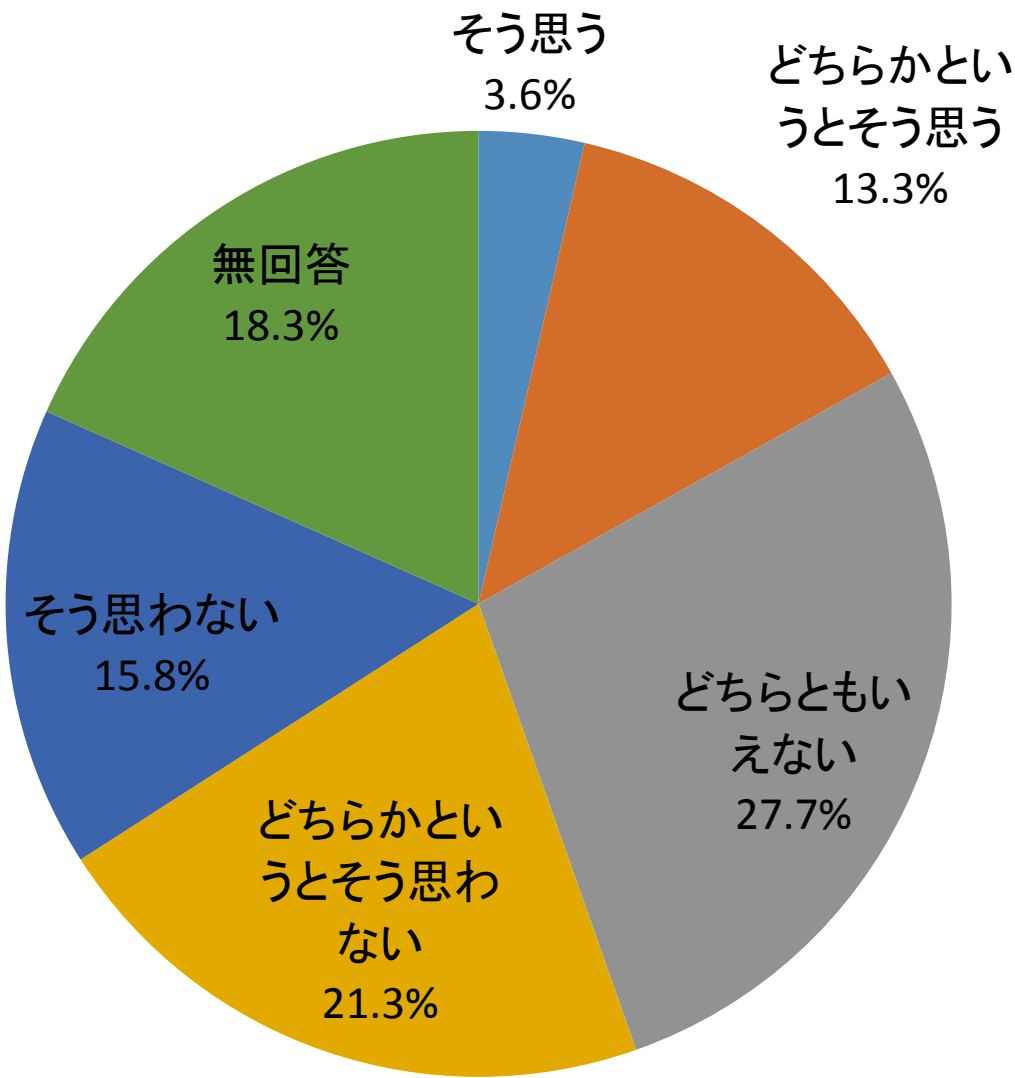


(出典:「第2期山科区基本計画」等に係るアンケート集計結果(平成28年10月実施))

4. 区民が感じている今の山科 大学

・「大学が身近に感じられるか」は、肯定的な回答が2割で、否定的な回答が4割。

[問]
山科区では、大学の市民
向けの講座や地域との交流
が行われるなど、大学が身近
に感じられる。



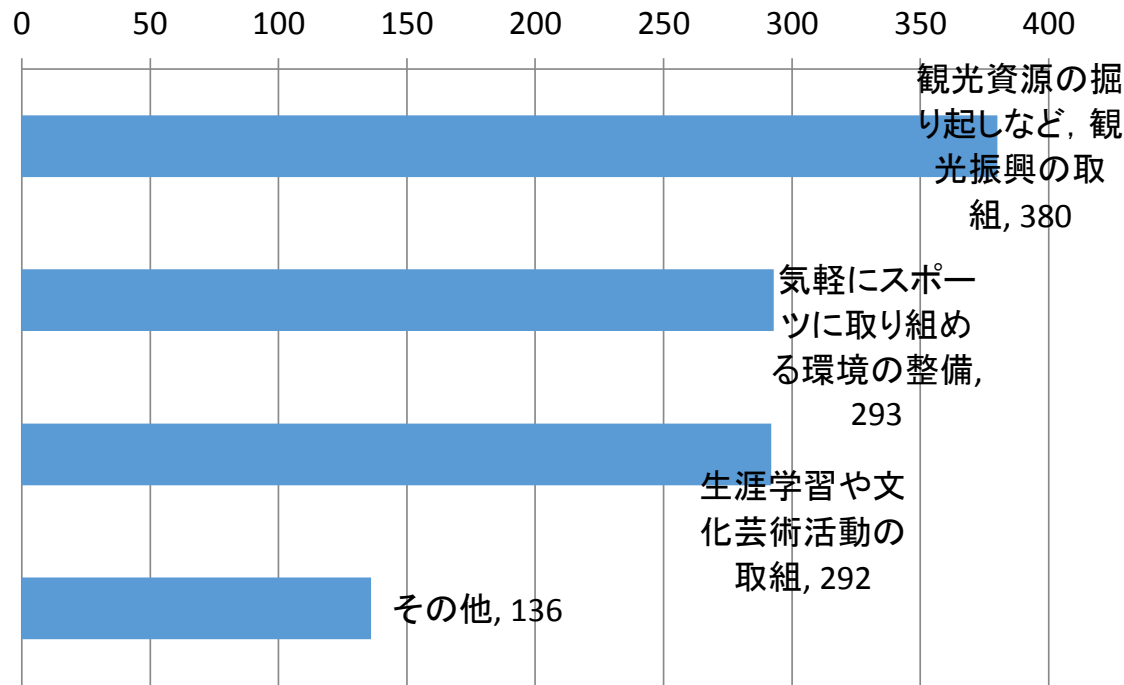
(出典:「第2期山科区基本計画」等に係るアンケート集計結果(平成28年10月実施))

4. 区民が感じている今の山科 まちの魅力向上に必要なもの

・ まちの魅力向上として「観光振興」を求める意見が多い。

[問]

山科のまちの魅力を高めるために、必要なことは何だと思いますか。該当する番号を選び○を付けてください。当てはまらない場合は、その他にお書きください。
＜複数回答可＞



(出典:「第2期山科区基本計画」等に係るアンケート集計結果(平成28年10月実施))

～ まとめ ～

<まちの魅力>

「まちに親しみ、まちと暮らしを十分に楽しんでいる」との肯定的な評価は約4割となっている。（否定的な評価は、約2割）

<地域コミュニティ>

町内会や自治会等の**地域活動について、5割以上の方が活発と評価**している。

<生涯学習>

肯定的な回答は1.5割に留まり、生涯学習に関する更なる取組が必要。

<安心安全>

治安に関しては**否定的な回答が半数近くあり、平成28年の人口当たり犯罪数が11行政区中で2番目に少ないという客観的事実とギャップ**がある。

【参考】事業者(企業・大学・各種団体等)へのヒアリングでの主な意見

「まち」について(その①)

<土地利用の状況>

- ① 山地に囲まれた盆地内部は、ほぼ宅地化が進み、**まちの魅力をより一層創出するために活用できる土地が乏しい**。
- ② **新十条通の北側**に水田が広がっている地域は、用途地域は工業系だが、農地なのでなかなか開発が進まず、もったいない。
- ③ **名神高速道路の南側**、まち美化事務所や山科警察署があるエリアは、今は、高校のグラウンドや福祉施設といった使い方で、もっと活用できるのではないか。

<交通>

- ① 鉄道は、JR線、京阪京津線、地下鉄東西線の3路線が走っており、区内に名神高速道路の京都東IC、京都高速道路の山科ICがあり、高速道路へのアクセスも非常に良く、**便利**である。
- ② 医療・福祉・商業施設など日常生活に必要な施設の徒歩圏でのカバー率は高く、駅までの到達時間は比較的短い。

<産業>

立地で見ると京都東インターチェンジや新十条通の山科インターチェンジにも近接し、外環もあるので、**市の南部地域等に比べても決して見劣りしない**。**新十条通の無料化も企業誘致に向けたインパクトとしては大きい**のではないか。

「まち」について(その②)

＜教育・生涯学習＞

- ① 高齢者にヒアリングすると、山科は集まる場所や生涯学習の場が少ないとの声を聞く。特に男性の方が外に出なくなっているようだ。
- ② 区民の学ぶ気持ちを支える取組も重要であり、生涯学習ができる、学びたい意欲を支えるスペースができると良い。

＜まちの魅力＞

- ① 山科駅前以外で、今後の中心として期待できる地域としては榊辻周辺である。活性化・発展に向けたポテンシャルは高い。
- ② 全体的に子どもや若者が山科を楽しむための仕掛けが少ない。区の将来のために魅力づくりが重要で、ハロウィンイベントなど、山科区に滞在させる、まちの賑わい創出に関わるための何らかの仕掛けが必要である。

＜地域コミュニティ＞

町内会や自治会は基本的に前向きで、地域で話し合い、意見を出しながら自分達で解決しようという姿勢がある。お互いに顔が見える関係であり、結束力が非常に強いと感じる。

「人」について

＜人口転出＞

結婚する前は山科区に居住する人が多いが、妊娠、出産をすると滋賀や伏見区に新しい住宅を求めて転出が多いことが特徴的である。

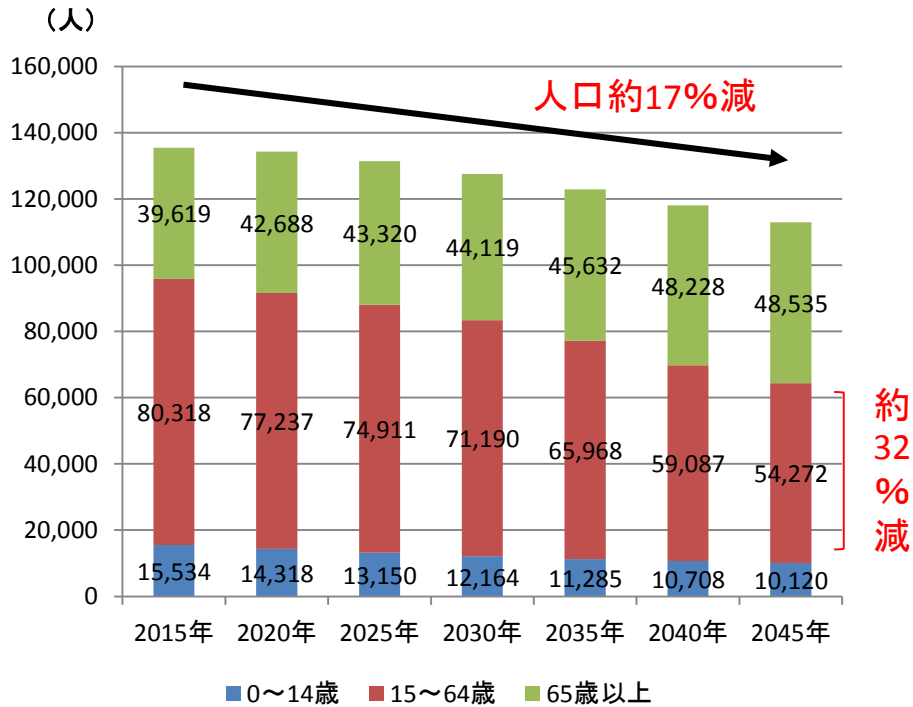
5. 山科の将来の見通し

(1)高齢化の進展／生産年齢人口・年少人口の減少

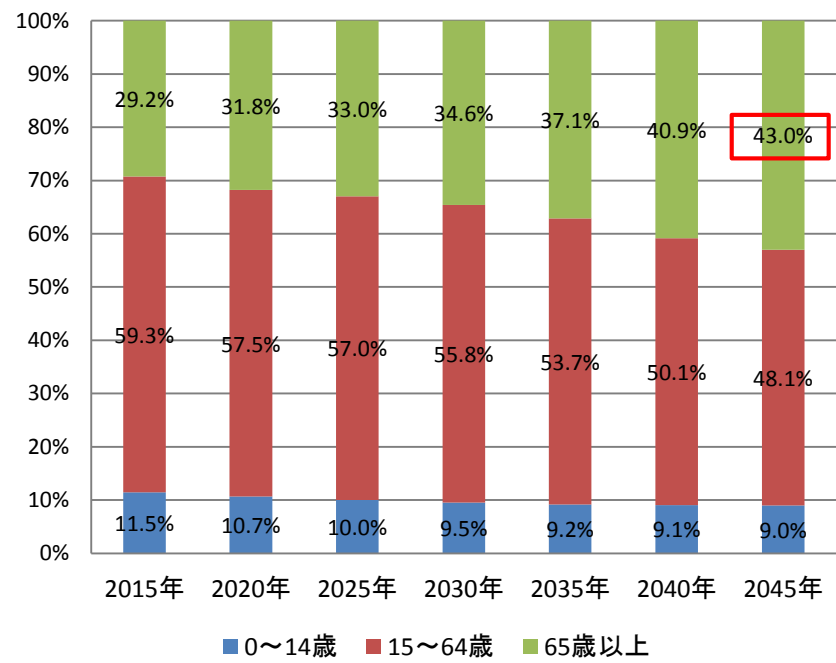
- 山科区の人口は、2015年(平成27年)135,471人⇒2045年には112,927人に減少。
(約17%, 22,544人の減)
- 高齢化率(65歳以上)は、43.0%(全市平均36.4%)に上昇。
- 生産年齢人口(15～64歳)は、約32%減少(全市平均:約23%減少)。

[山科区]

人口の将来推計(実数)



人口の将来推計(%)

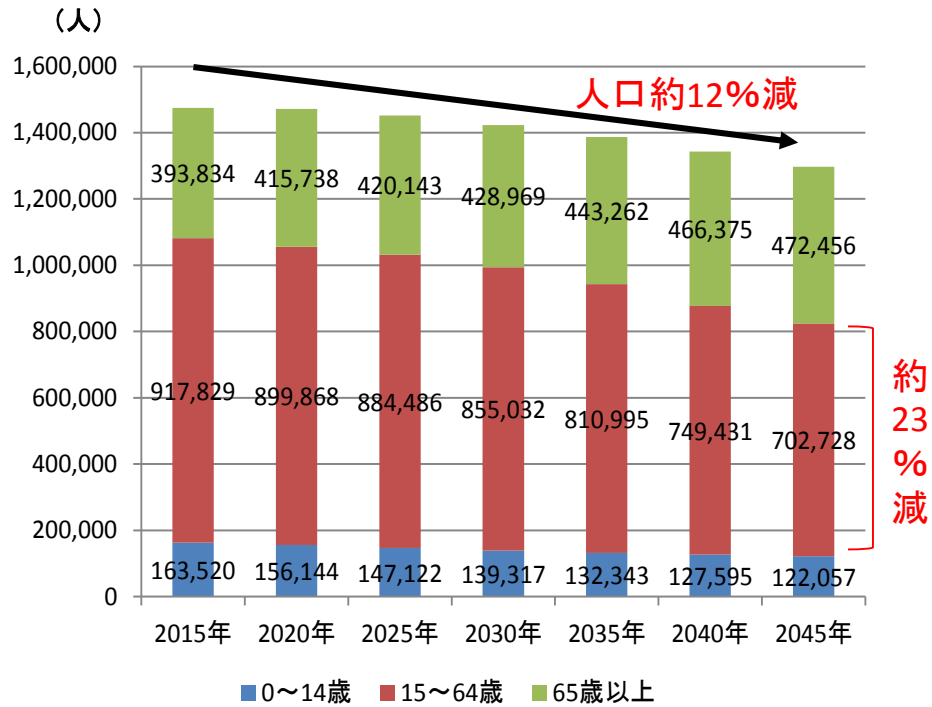


(1)高齢化の進展／生産年齢人口・年少人口の減少

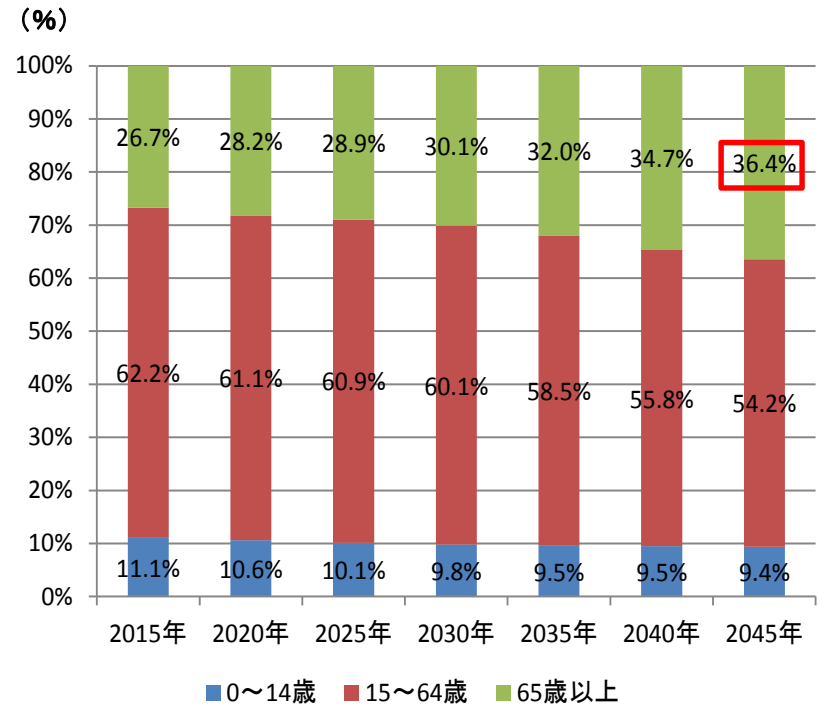
- 京都市の人口は、2015年(平成27年)1,475,183人⇒2045年には1,297,241人に減少。
(約12%, 177,942人の減)
- 高齢化率は、36.4%に上昇。
- 生産年齢人口は、約23%減少。

[京都市]

人口の将来推計(実数)

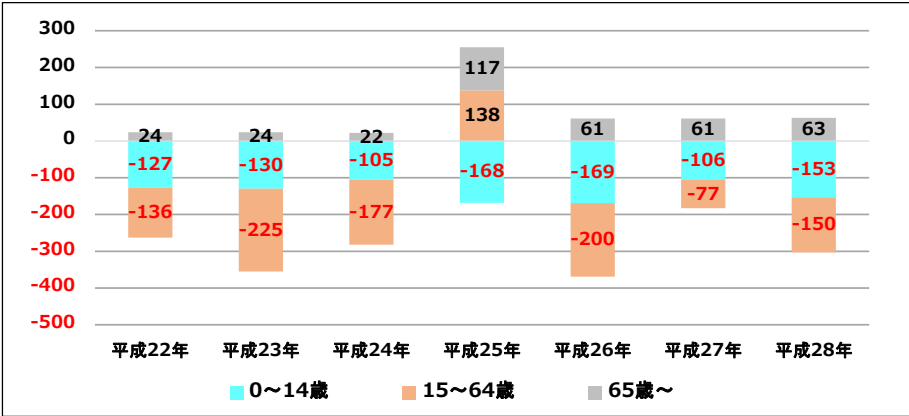


人口の将来推計(%)

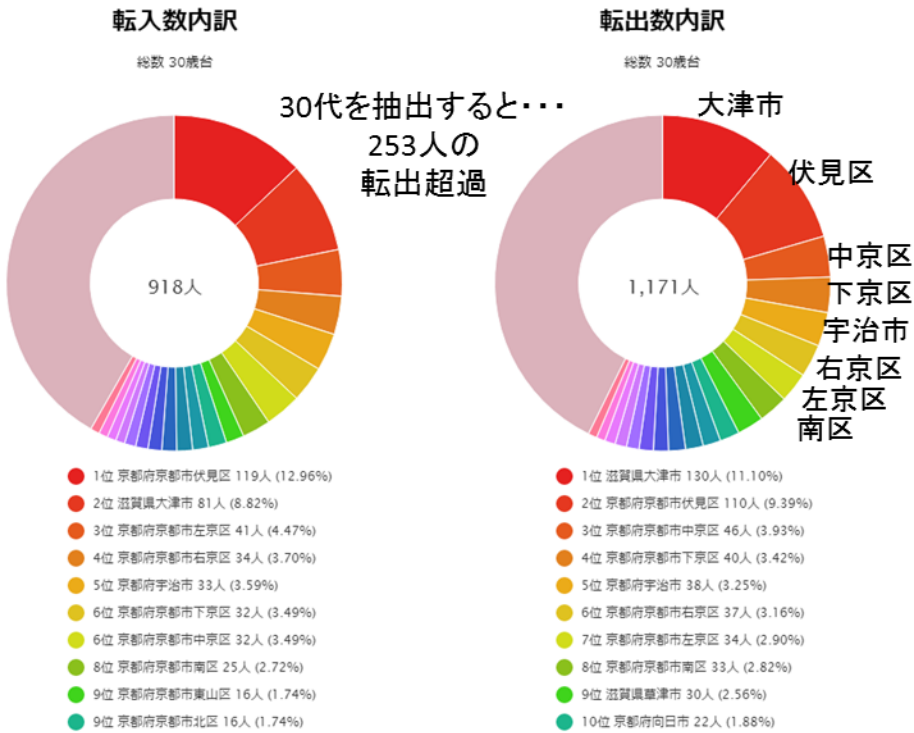


(2)転出人口の増加, 子育て層の流出

・ 社会増減(転出入)を見ると, 65歳以上の高齢者は転入超過による増加傾向にあり, 生産年齢人口, 年少人口は転出が多く減少傾向である。



山科区の年齢階級別移動数
(平成22年～平成28年)



山科区From-to分析(定住人口)
(平成28年)

(出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」など)

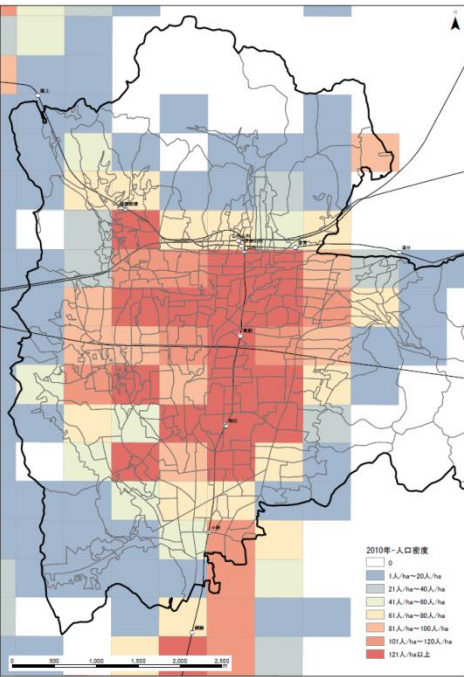
(3)空き家の増加

- 人口減少に伴い、市街地の人口密度も全体的に低下。特に、現在人口密度の高い地下鉄沿線、駅周辺部での低下が顕著になる。
- それに伴い、空き家の増加も懸念。(現在でも、全市平均を上回る空き家率。)

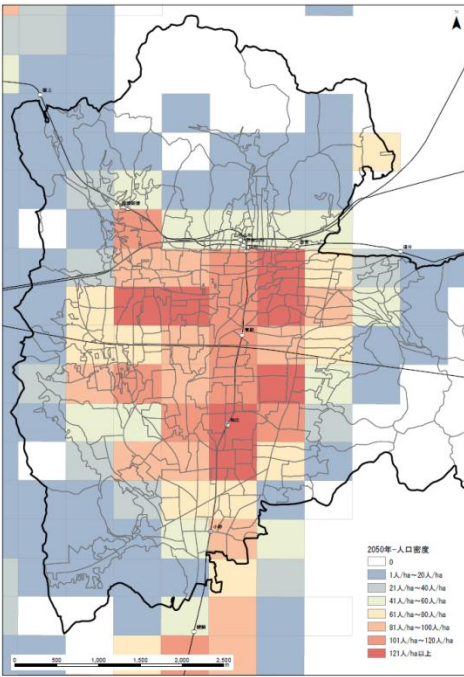
【人口密度(500mメッシュ)】

- 2010年は、120人/haを上回る高密度な市街地が、地下鉄沿線など区の中心部に分布。
- 2050年になっても、一定の密度は維持されるものの、81-100人/haなど低下する市街地が増加する。

2010年



2050年

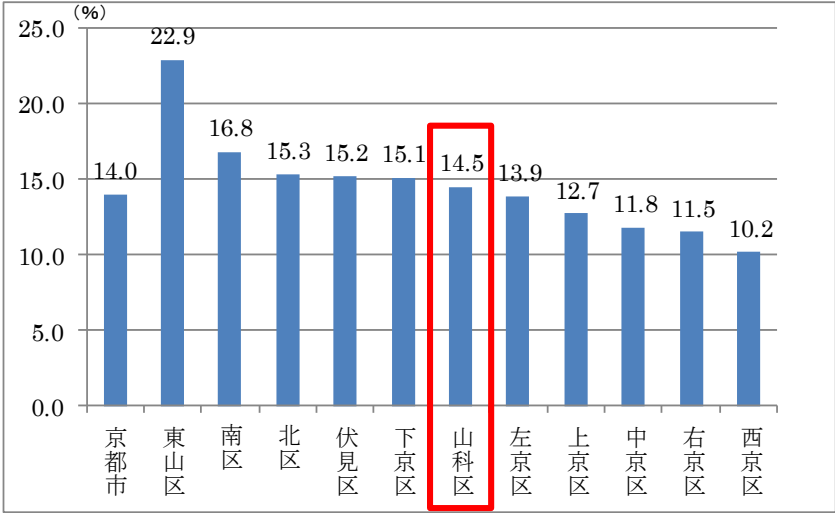


人口密度の変化(500mメッシュ)

(出典:国土数値情報)

【空き家率】

- 平成25年の調査結果では、山科区の空き家率は14.5%と全市平均を上回っており、1万戸を超える空き家が存在。今後、さらに増加が見込まれる。



空き家率 (出典:平成25年住宅・土地統計調査)

**昭和30～40年代に、急速に宅地化が進み、人口も増加。
全市平均を上回るペースで、総人口・生産年齢人口が減少し、高齢化が進む。**

- **約30年後の2045年には、**
 - ① **人口は、約17%減少**（全市平均：約12%減少）
 - ② **生産年齢人口は、約32%減少**（全市平均：約23%減少）
 - ③ **高齢化率は、43.0%**（全市平均：36.4%）に上昇。
- **空き家も相当数増加していくことが予測される。**
 - ＜空き家率＞ 14.5%（平成25年度）
 - ＜参考＞
 - 全国的な空き家の状況 **13.5%（平成25年度）**
 - ⇒ **20年後に、30.2%**になるとの見込みもある（民間調査会社調べ）



経済の縮小やコミュニティの機能低下、空き家の増加など、深刻なまちの活力の低下をもたらすおそれがある。



**住んで、働いて、訪れて、楽しいまち・山科へ！
新たな定住者を呼び込み、次の世代にとっても住みたくなるまちへ！**

6. 山科区基本計画について （平成23～32年度）

(1)山科区基本計画(平成23～32年度)での方向性

計画の基調

人づくり

区民一人一人がまちづくりの主役であることから、この計画は、「まちづくりは人づくり」の考えに立っています。

共汗・協働

分野ごとの取組を確実に進めるだけでなく、あらゆる分野間の取組の「融合」を図って、一層、効果的・効率的にまちづくりを行います。

融合

山科区づくりにかかわるすべてのひとが、共に汗を流して取り組む内容を示した計画です。

**山科区のまちづくりは
「まちづくりは人づくり」に立脚**

山科区の将来像

心豊かな 人と緑の“きずな”のまち 山科

水・緑が彩る、うるおいのまち

将来の山科区のまちには、区民の手によって、河川や疏水の流れ・杜の緑が守られ、また、まちなかの水と緑が作り育まれて、さらにうるおい豊かでみずみずしい都市空間・生活空間が形成されています。そこには、さまざまな知恵と行動が交わるなかで、快適で、地球環境と調和した暮らしが営まれています。

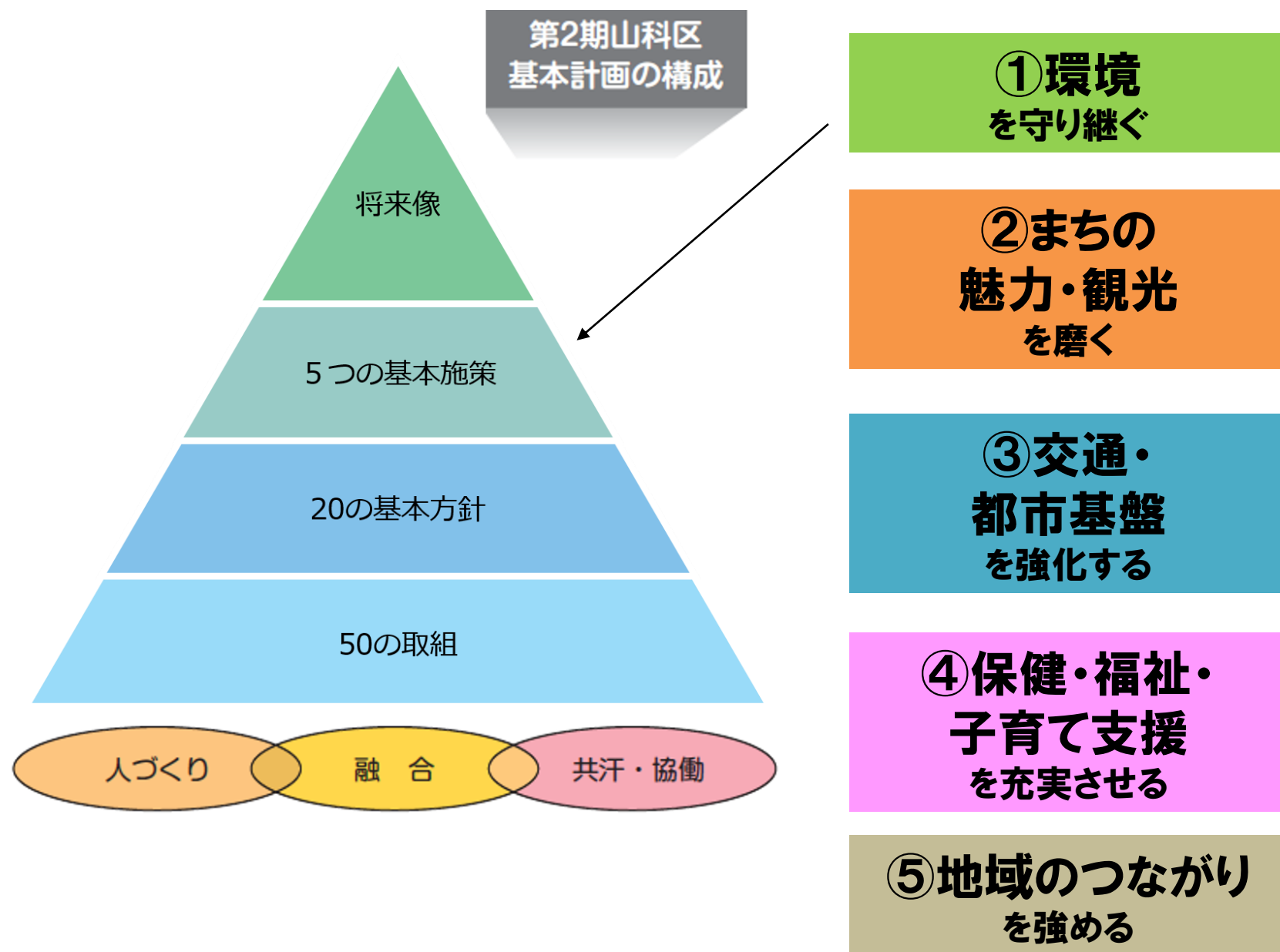
魅力と元気がいっぱい、かがやきのまち

山科区に数多くある、先人から受け継いだ歴史的・文化的資源が、その価値のもとで互いに結び付けられてさらに生かされています。そして、まちに誇りをもつ区民の力と学生等の若い力が、区内外に「山科の魅力」を発信する底力となって山科区全体が活気付いており、暮らすひとと訪れるひと、みんなが“山科区”に親しみ“山科区”を楽しんでいます。

確かな自治の気風がつくる、あんしんのまち

互いが互いを見守り合い、ともに助け合う自然な心の動きが、優しい眼差しや声かけとなって「ご近所付き合い」から「地域づくり」にまで広く行き渡っており、確かな自治の気風とあいまって、なごやかな雰囲気と、まちと暮らしの安心・安全をつくっています。

(2)山科区基本計画での施策の体系



(3)「まちづくりは人づくり」の考えにつながる主な取組

- 山科区全13学区の自治連合会，山科区地域女性連合会などの地域団体による，自治会活動が連綿と続けられ，区内のコミュニティの連帯感・一体感醸成に取り組まれている。
- 区内企業等からなる山科経済同友会をはじめ，区内でさまざまな団体がまちの活性化につながる取組を展開。

【山科義士まつり】

- 大石内蔵助良雄が山科に隠棲した史実にちなみ，住民と企業，行政が一体となり，地域の健全なコミュニティづくりを目的に，昭和49年からスタート(今年で44回目)。



【山科区2万人まち美化作戦】

- 各学区の自治連合会が中心となり，学区内の道路・河川(遊歩道など)の一斉清掃や門掃き，電柱等の違反広告物の撤去などを地域住民が一体となって毎年実施。

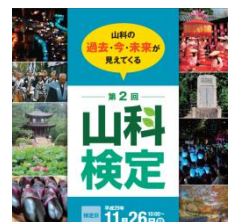


【大学との包括連携協定等に基づく取組】

- (京都薬科大学)
災害時の避難所指定，理科実験教室や薬物教室などの実施
- (京都橘大学)
災害時の避難所指定，サテライト・ラボラトリー「たちラボ山科」の開設，やましな駅前陶灯路PRなどの取組

【山科経済同友会】

- 昭和44年，地区唯一の経済団体として発足，平成12年に公益法人となり，現在まで多岐にわたる活動を展開。
- 山科の歴史，文化，産業等への理解を深め，山科への愛着を一層醸成するとともに，山科の魅力を，未来を担う若い世代へ継承する事業として「山科検定」を実施。



【山科区民まちづくり会議】

- 「第2期山科区基本計画」の将来像の達成に向けて，区民・地域団体・NPO団体・事業者・大学・行政等のオール山科で，山科ならではの地域力を活かしたまちづくりを実現するために設置。

【その他の取組】

- おこしやす“やましな”協議会
- 山科“きずな”支援事業，やましなGOGOカフェなど

7. 今後の山科の まちづくりの方向性

(1) 今後の山科のまちづくりの方向性(案)

<今の山科区>

山科の特性

- ・ 市民力、地域力が強い
- ・ 安心安全のまち
- ・ 交通の利便性が高い
- ・ 多くの歴史的資源が存在

山科の「まち」

- ・ 盆地内部は、宅地化が進み、ほぼ大半が住宅地
- ・ 新たに活用できるまとまった土地が乏しい

山科の「ひと」

- ・ 昭和期に人口が急増。ここ数年は、緩やかに減少

<まちの見通し>

人口構造の変化

- ・ 2045年には約17%, 22,544人の減
- ・ 生産年齢人口が減少し、高齢者人口が増加

人口の流出

- ・ 生産年齢人口、年少人口の転出
- ・ とりわけ30歳代など子育て層が流出(大津市など)

空き家の増加

- ・ 人口減少に伴い、市街地の人口密度が減少
- ・ それに伴い、空き家の増加も懸念

<今後の山科のまちづくりの方向性(案)>

(1) 若者から高齢者まであらゆる世代が住みよいまち・コミュニティの維持

テーマ例: 住環境/コミュニティ/健康・福祉/安心・安全 など

(2) 子育て世代など新たな定住者を呼び込むまちづくり

テーマ例: 子ども・子育て/教育/働く場づくり など

(3) 次代の山科の魅力を創り出すまちづくり

テーマ例: 新産業/歴史・文化・観光/賑わい・まちのイメージ変革 など

キーワード「ひとづくり」

～住んで、働いて、訪れて、楽しいまち・山科へ～

(2)まちづくりの方向性を実現するために必要なこと

<まちづくりの方向性(案)>

キーワード「ひとづくり」

～住んで、働いて、訪れて、楽しいまち・山科へ～

(1) 若者から高齢者まで あらゆる世代が住みよい まち・コミュニティの維持

テーマ例：住環境/コミュニティ/
健康・福祉/安心・安全 など

(2) 子育て世代など 新たな定住者を 呼び込むまちづくり

テーマ例：子ども・子育て/
教育/働く場づくり など

(3) 次代の山科の魅力を 創り出すまちづくり

テーマ例：新産業/歴史・文化・観光/
賑わい・まちのイメージ変革 など

① 山科のまちの 構造から考える

- ・ 山科駅周辺のより一層の活性化
- ・ 東西(地下鉄, JR等の鉄道／三条通, 国道1号等の幹線道路)＋南北(地下鉄, 外環状線)のT字型のまちの構造を活かした活性化
- ・ 山科駅周辺以外のにぎわい創出拠点を形成

② 山科のひとの 状況から考える

- ・ 人口は, ここ数年は, ゆるやかに減少
- ・ 今後, 高齢化が進み, 生産年齢人口が減少する中, 子育て世代など新たな定住者を呼び込む取組が必要
- ・ 高齢者と若い世代の交流や地域コミュニティ・つながりの維持・活性化など, 暮らす魅力を高める取組が必要

③ 山科の土地利用・ 今後の変化から考える

- ・ 山地に囲まれた盆地内部は宅地化が進み, まちの魅力を創出するために活用できる土地が乏しい
- ・ 新十条通北部, 名神高速道路南部に低未利用地が点在しており, 有効活用に向けた方策の検討が必要
- ・ 31年4月から新十条通が無料化される予定
- ・ 国道1号バイパス(京都市～大津市)建設構想に向けた検討が進められつつある

(2)まちづくりの方向性を実現するために必要なこと

① 山科のまちの構造から考える

- 山科駅周辺のより一層の活性化
- 東西(地下鉄, JR等の鉄道／三条通, 国道1号等の幹線道路)＋南北(地下鉄, 外環状線)のT字型のまちの構造を活かした活性化
- 山科駅周辺以外の賑わい創出拠点を形成



●山科駅前エリア

⇒山科の顔であるエリアをどう作っていくのか

※(関連)外環状線沿道

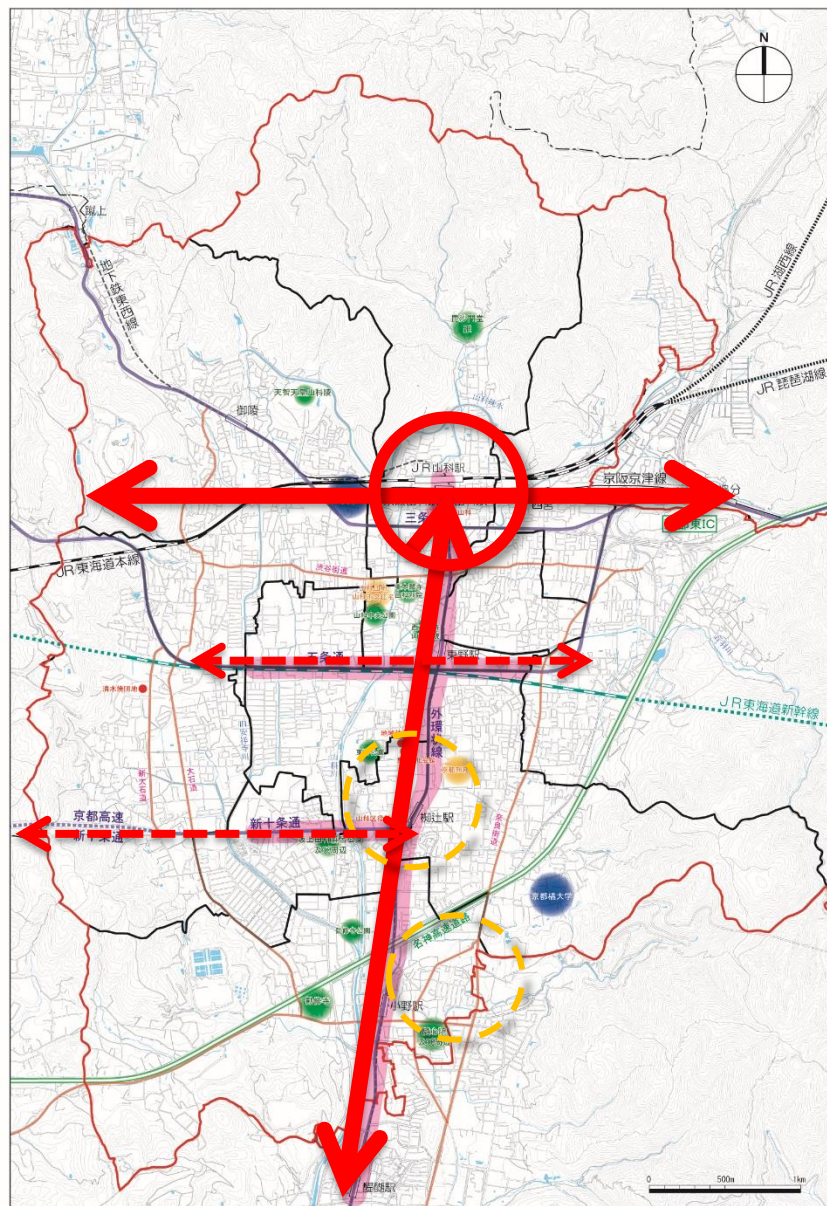
⇒山科駅からどう都市の骨格を作っていくのか

●京都刑務所周辺エリア

⇒行政施設に加え, 外環状線沿道に商業施設も集積しつつある中, どのようなまちづくりを考えていくべきか

●山科区東南部エリア

⇒外環状線沿道に, 市街化調整区域が残されていること等を踏まえ, 山科の魅力創出に向けてどのような方策を検討していくべきか



(2) まちづくりの方向性を実現するために必要なこと

② 山科のひとの状況から考える

- 人口は、ここ数年、ゆるやかに減少
- 今後、高齢化が進み、生産年齢人口が減少する中、子育て世代など新たな定住者を呼び込む取組が必要
- 高齢者と若い世代の交流や地域コミュニティ・つながりの維持・活性化など、暮らす魅力を高める取組が必要



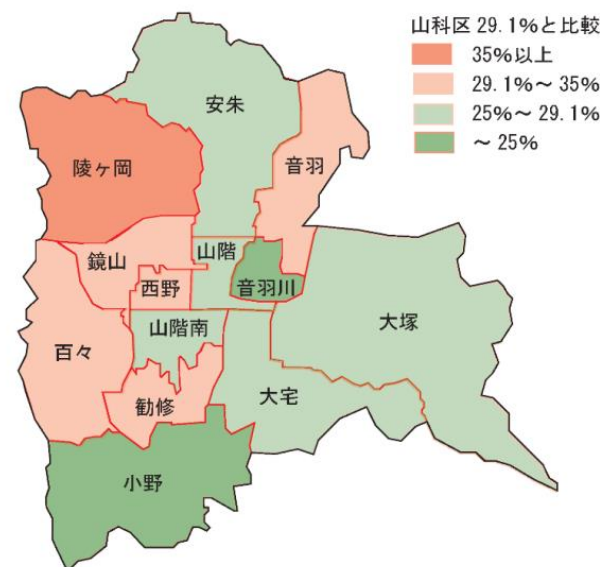
●山科団地エリア

⇒共同住宅が集積する人口密度の高いエリア(共同住宅率が75%)であり、今後、急激に高齢化が進む可能性が高い。

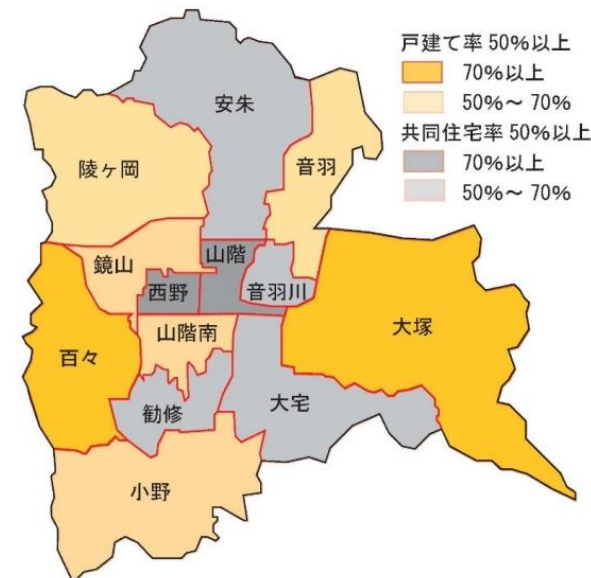
※西野学区では、H17→27の10年間で区内で最も高齢化が進み、現在、高齢化率が2番目、33.8%。

⇒山科でも最も大規模な市営住宅、公社分譲住宅が集積しており、子育て世代の入居促進など、高齢化が進む団地の活性化に向けた先進的事例に取り組むエリアとして位置づけ

平成 27 年高齢化率の山科区と学区の比較（山科区：29.1%）



平成 27 年住宅の建て方（山科区：戸建て率 53%、共同住宅率 45%）



(2)まちづくりの方向性を実現するために必要なこと

③ 山科の土地利用・今後の変化から考える

- ・ 山地に囲まれた盆地内部は宅地化が進み、まちの魅力を創出するために活用できる土地が乏しい
- ・ 一部、新十条通北部、名神高速道路南部に低未利用地が点在しており、有効活用に向けた方策の検討が必要
- ・ 31年4月から新十条通が無料化される予定
- ・ 国道1号バイパス(京都市～大津市)建設構想に向けた検討も進められつつある

●新十条通沿道エリア

⇒用途地域が第2種住居地域、準工業地域等であるが、沿道北部に低未利用地が点在。今後、京都高速新十条通の無料化等により、山科の魅力創出に向けた有効活用が期待されるエリア

新十条通の北側に水田が広がっている地域は、用途地域は工業系だが、農地なのでなかなか開発が進まず、もったいない。(事業者ヒアリング)

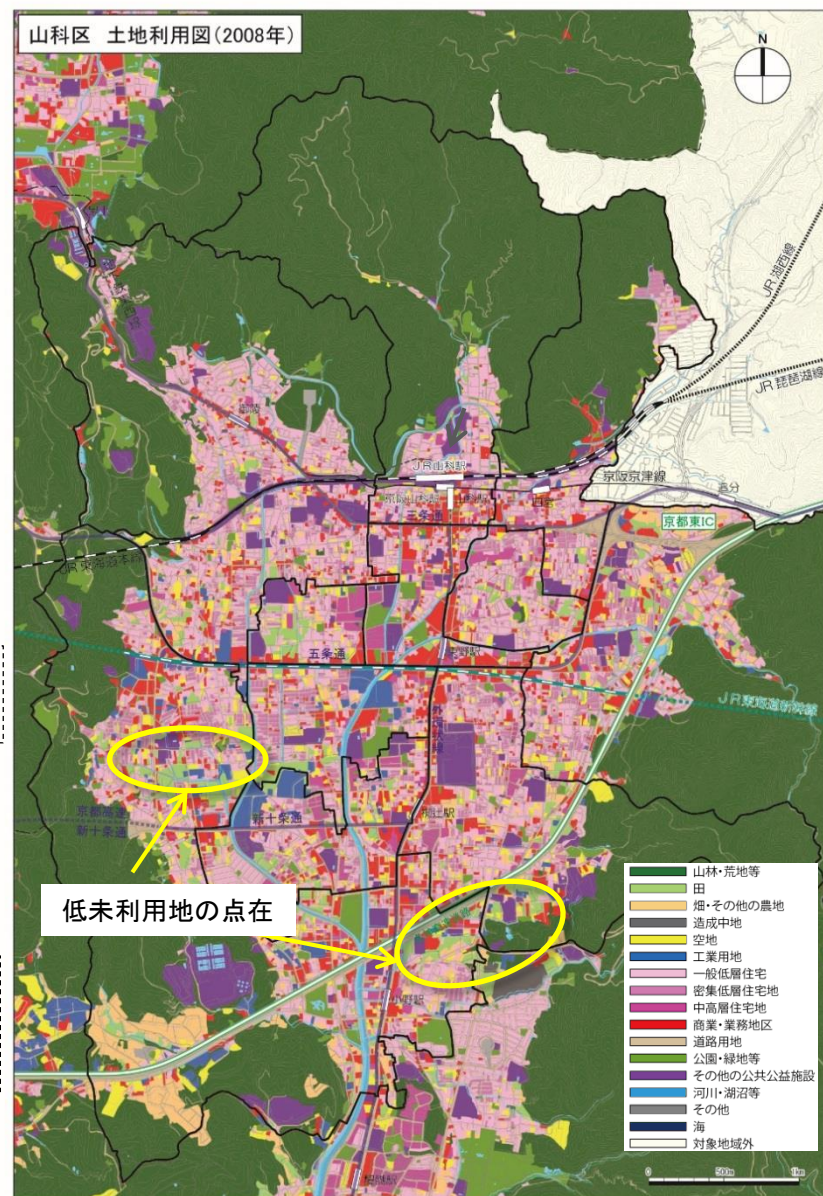
●山科区東南部エリア

⇒外環状線や地下鉄小野駅に近接している一方で、市街化調整区域が残されていること等を踏まえ、山科の魅力創出に向けた方策の検討が期待されるエリア

名神高速道路の南側、まち美化事務所や山科警察署があるエリアは、今は、高校のグラウンドや福祉施設といった使い方で、もっと活用できると思う。(事業者ヒアリング)

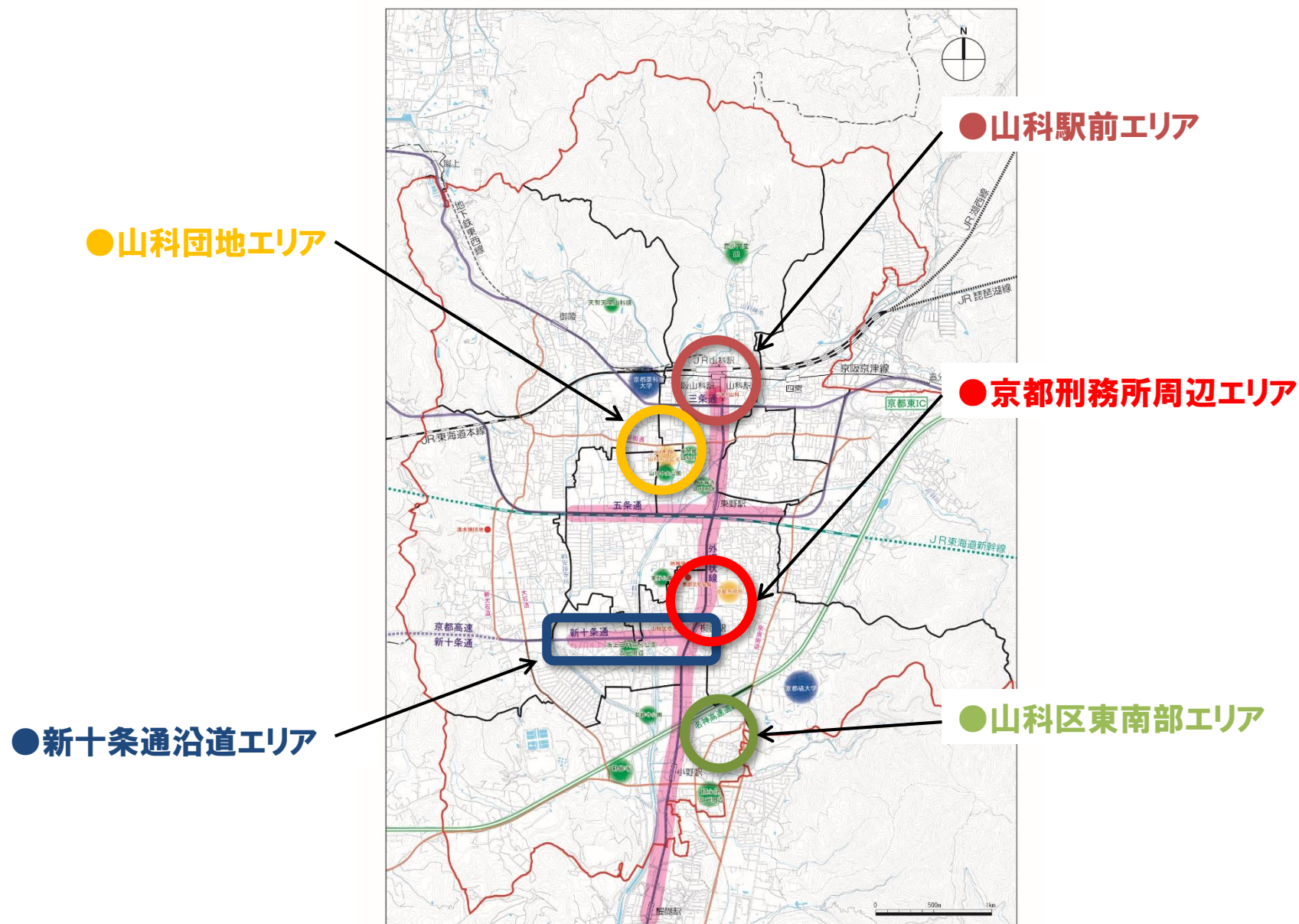
●京都刑務所周辺エリア

⇒市が移転要望を実施しており、実現後の土地利用により山科の魅力創出に向けて非常にポテンシャルの高いエリア



(出典:国土地理院資料)

(3)まちづくりの方向性を実現する上でポイントとなるエリアの設定



(4)エリア毎の状況 山科駅前エリア

エリアの状況

- JR、京阪京津線、地下鉄東西線の3路線が交わる山科駅の1日平均乗車人員は約5万8千人(平成28年度)で、京の東の玄関口
- 市街地再開発事業により平成9年にラクト山科がオープン、公共施設や商業施設、商店街等も接続する区の拠点
- 駅周辺でのマンションの立地
- ラクト山科A棟ホテル(現:ホテルブライトンシティ京都山科)について、賃貸借契約が平成30年9月末で終了することに伴い、同年10月以降、リニューアルオープンを予定



京の東の賑わい拠点として、駅周辺をより一層活性化するための方策を検討。

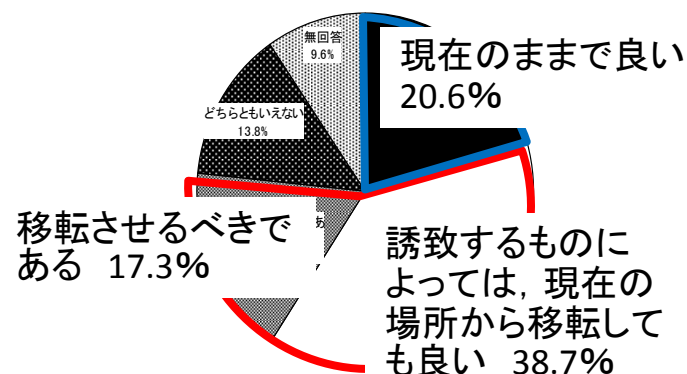
(出典: Google Earth(以下同じ))

(4)エリア毎の状況 京都刑務所周辺エリア

エリアの状況

- 京都刑務所は、昭和2年に、当時はまだ田園風景が広がる現在地に移転
- その後90年が経過する中で周辺の宅地化が進むとともに、地下鉄東西線や京都高速道路が開通し交通利便性が飛躍的に高まるなど、周辺環境は大きく変貌
- 山科区役所や外環状線沿道に集積する商業施設への人の流れがある

- 平成25年10月に、市が法務省に、京都刑務所を廃止し、跡地をまちづくりに活用できるよう求めていく方針を表明。
- 区民アンケートによると、移転に肯定的な回答は約6割の結果



宅地化が進んでいる山科区だけでなく、市内でもこれほど広大な土地の確保は困難

敷地の活用により、山科のまちのイメージを大きく変革し、より魅力ある、安心・安全な住環境に向上させることができる。

刑務所敷地の活用は、今後の山科のまちづくりに非常に大きな可能性がある。

活性化の起爆剤として、まちづくりの方向性に沿って、京都刑務所敷地の活用策を検討。

(参考)事業者(企業・大学・各種団体等)へのヒアリングでの主な意見(その①)

<活用に当たっての全般的な意見>

- ① 約10haと対象敷地が広大であることから、単体開発でなく、複合的な機能によるまちづくりとして考えることが必要である。
- ② 幹線道路である外環状線に面していないことが、大型商業施設や産業・企業誘致等を検討する際には課題である。
- ③ 跡地を活用する場合は、地域住民から防災機能を有した広場やオープンスペースの要望が挙がるのではないかと。

(参考)事業者(企業・大学・各種団体等)へのヒアリングでの主な意見(その②)

<活用の方向性>

① 住宅

- ・ 戸建住宅・マンションを含めて、住宅開発の意欲は極めて高い。

② 商業施設

- ・ 商業施設は、山科区では一般にオーバーストアと見られるなか、刑務所敷地の活用においても、近隣住民向けのネイバーフッド型ショッピングセンターは成立しうるが、山に囲まれた商圈であることから、広域集客を図る大型ショッピングモールやアウトレットは難しいのではないか。
- ・ 適正な開発規模は、敷地面積で約1haと見られる。

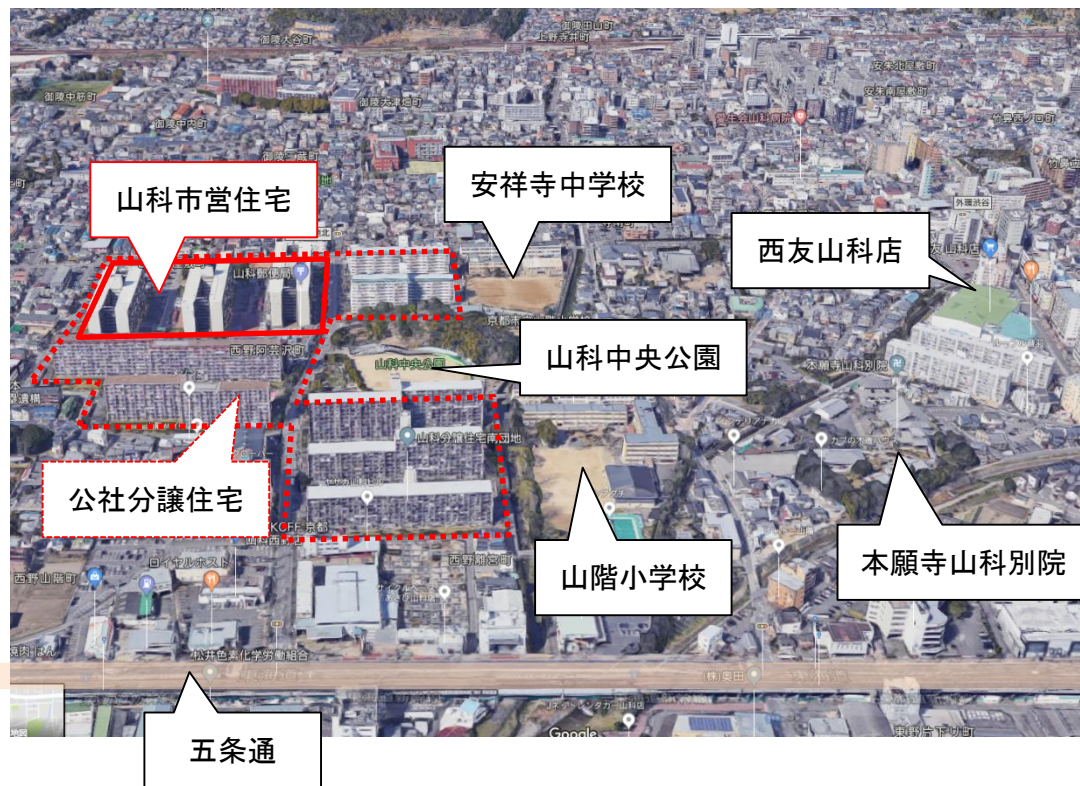
③ 産業・企業誘致

- ・ 地域活性化を図るためには、地域を元気にする産業、企業の誘致が重要である。
- ・ 優秀な人が集まるには交通の利便性も重要なポイントで、居住地近接の優位性も評価される。そういった意味で、山科区には地の利がある。
- ・ 産業団地を創出し、研究所等を誘致するストーリーは方向性としてある。
- ・ 研究開発拠点としては、山科が京都と滋賀の境に位置することを考えると、京都の大学だけでなく、滋賀の大学や滋賀方面の工場との連携が期待できる。
- ・ イメージとしては、京都リサーチパーク(KRP)で、KRPの敷地規模は約5.6haである。

(4)エリア毎の状況 山科団地エリア

エリアの状況

- 山科市営住宅:3棟, 管理戸数986戸, 昭和45～46年建築(トータルリモデル実施済)
- 居住者の高齢化等が進んでおり, 入居戸数911戸のうち, 高齢者を含む世帯数628戸(全市で2番目に多い)で, さらに高齢者の単身世帯数は330戸(全市で1番多い)
- 敷地北・西側は戸建住宅地, 東・南側は公社集合住宅(分譲:7棟, 1,095戸)で囲まれている

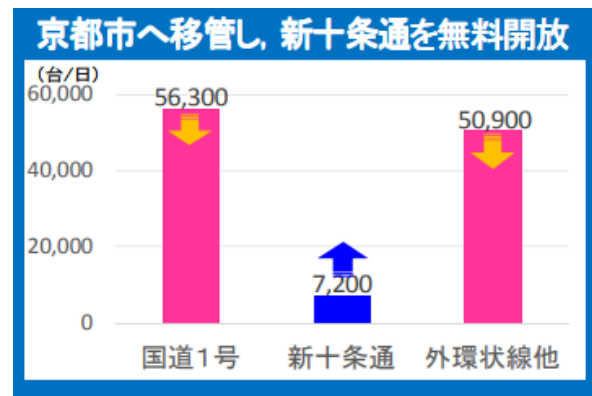


子育て世帯を呼び込むとともに、大学との連携や学生との交流による活性化、コミュニティ強化を図るための方策を検討。

(4)エリア毎の状況 新十条通沿道エリア

エリアの状況

- 平成20年6月、新十条通供用開始
- 新十条通の利用者数が少なく(想定交通量の3割程度)、並行路線である国道1号や外環状線で交通渋滞が発生している状況。このため交通分担の適正化を図る目的で、新十条通の京都市への移管を要望し、平成31年4月から無料化される予定
- 今後、沿道の交通量増加とあわせて山科のまちの活性化や魅力の創出に向けて、低未利用地を含め、より一層有効利用できる余地がある
- 沿道は第二種住居地域、一部準工業地域(容積率300%)
- 沿道には、旧安祥寺川沿いを中心に企業立地が見られる他、農地等も分布



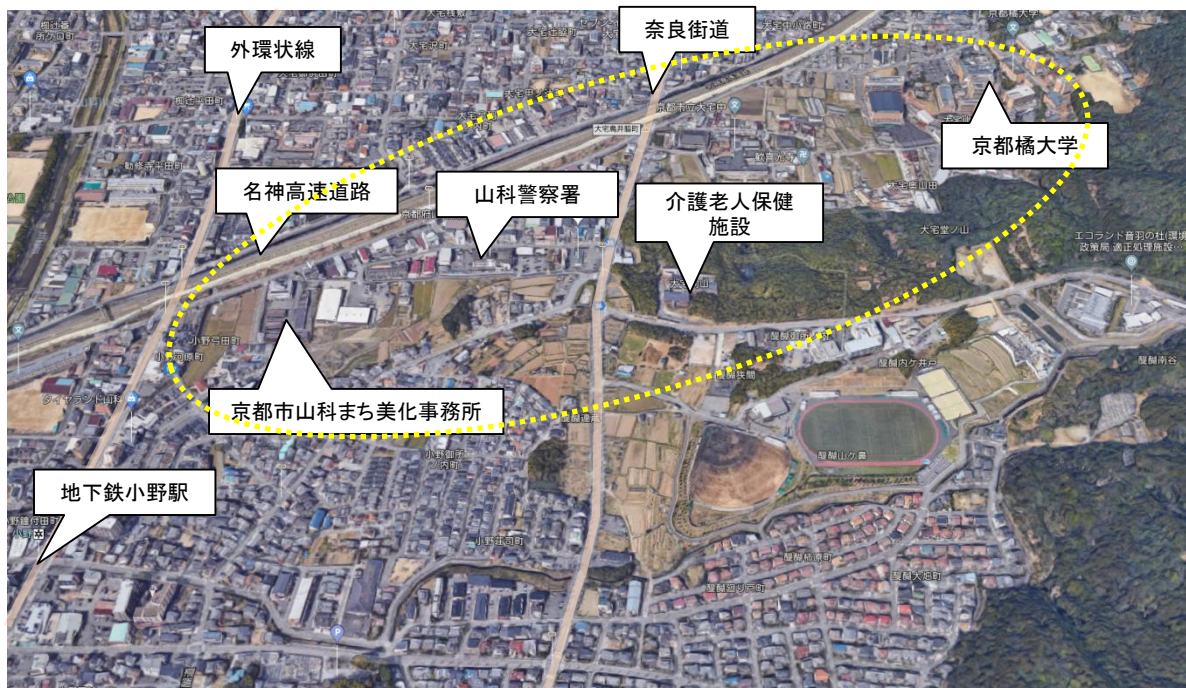
(出典:京都市資料)

山科の活性化・賑わいの創出、転入人口の増加を図るため、沿道エリアの有効活用を促進する方策を検討。同時に、交通量増加への対応も必要。

(4)エリア毎の状況 山科区東南部エリア

エリアの状況

- 山科区は、基本的に盆地平坦部はほぼ市街化区域に指定され、市街化がなされているが、一部、市街化調整区域が残されている
- 市街化調整区域では、原則、開発行為や建築行為が制限されている
- 介護老人保健施設や物流施設などがあるが、農地等を主体とした土地利用
- 周辺は宅地化されており、西部、南部は戸建て住宅が建築されている
- 外環状線に接し、地下鉄小野駅に近い



山科の活性化・賑わいの創出、転入人口の増加、企業誘致による雇用創出を図るため、この地域のまちづくりのあり方を検討。

1. 山科区の現状・課題

- 区民や事業者の方々の実感から、山科区の現状はどう捉えておられるか？課題は？

2. 今後の山科のまちづくりの方向性(案)

- 今後の山科のまちづくりについてのご意見は？
- “人づくり”をキーワードに、3つの方向性を案として示しているが、重視すべき・強調すべきことなどはあるか？

3. モデルエリアでの検討

- 京都刑務所エリアにおける期待や、移転に対するご意見は？
- その他のモデルエリアについては？